

港区ごみ排出実態調査
報告書
(平成 19 年度)
(概 要 版)

平成 20 年 3 月

港 区

目 次

調査の目的	1
家庭ごみ分析調査（通常地区）	2
家庭ごみ組成分析調査（モデル回収実施地区）	8
家庭ごみ排出原単位調査	14
区民アンケート調査	18
事業所アンケート調査	25
モデル地区定点観測調査	31
考察	37

調査の目的

平成 20 年 10 月から港区では、家庭から排出されるプラスチック等の有効活用を図るために、プラスチック資源の分別収集とゴム・皮革類の可燃ごみ収集を内容とする分別収集の変更を実施する予定である。そのために、平成 19 年 10 月からはモデル回収実施地区を定め、実際に分別収集の変更を実施している。また、平成 20 年度からは、区の今後のごみ処理行政の基本となる「港区一般廃棄物処理基本計画」の改訂時期を迎えている。

このような背景のもと、本調査は、分別収集変更の際の基礎データとして活用するほか、一般廃棄物処理基本計画見直しのための基礎資料とするとともに、さらに、ごみの排出指導、普及啓発活動、リサイクル事業など、清掃事業具体的施策全般にわたり活用するために実施した。

なお、本調査は、上記目的のために、具体的には下記の 6 つの調査を実施した。

家庭ごみ組成分析調査（通常地区）

モデル地区以外の家庭から排出される可燃ごみ、不燃ごみ及び資源の組成を把握。

家庭ごみ組成分析調査（モデル回収実施地区）

モデル地区から排出される可燃ごみ、不燃ごみ、資源及びプラスチック資源の組成をモデル回収実施前と実施後で把握。

家庭ごみ排出原単位調査

家庭から排出される 1 人あたりのごみ量を把握するために、集積所に排出されるごみの重量をモデル地区と通常地区で把握。

区民アンケート調査

区民のごみの分別、保管、排出の実態やごみ減量・リサイクルに対する意向を把握。

事業所アンケート調査

区内事業所のごみの分別、保管、排出の実態やごみ減量・リサイクルに対する意向を把握。

モデル地区定点観測調査

分別区分変更モデル地区の分別区分の変更実施前と実施後の変化を把握。

家庭ごみ組成分析調査結果（モデル地区以外の通常地域）

1. 調査概要

調査対象地区

調査は、以下の5つの地域類型からそれぞれ2地域、及びディスポージャーを設置した集合住宅1地域、計11地域を対象に平成19年10月22日～27日にかけて実施した。

調査対象地域

5つの地域類型

- ）建住宅が多い地域（「戸建て住宅地域」）
- ）管理が良好な集合住宅地域（以下「集合住宅地域（管理良好）」）
- ）管理が良くない集合住宅地域（以下「集合住宅地域（管理不良）」）
- ）単身者用集合住宅地域（以下「単身集合住宅」）
- ）住宅及び商業混在地域（以下「住商混合地域」）

ディスポージャーを設置した集合住宅（以下「ディスポージャー設置住宅」）

調査方法

上記地域の集積所からサンプルとなるごみ・資源を収集し、みなと清掃事務所に搬入して組成調査を実施した。サンプルの試料が多い場合は4分法で縮分し、少ない場合は縮分せずに全量分析した。

分類項目

分類は、次ページの表のように52類に分類した。

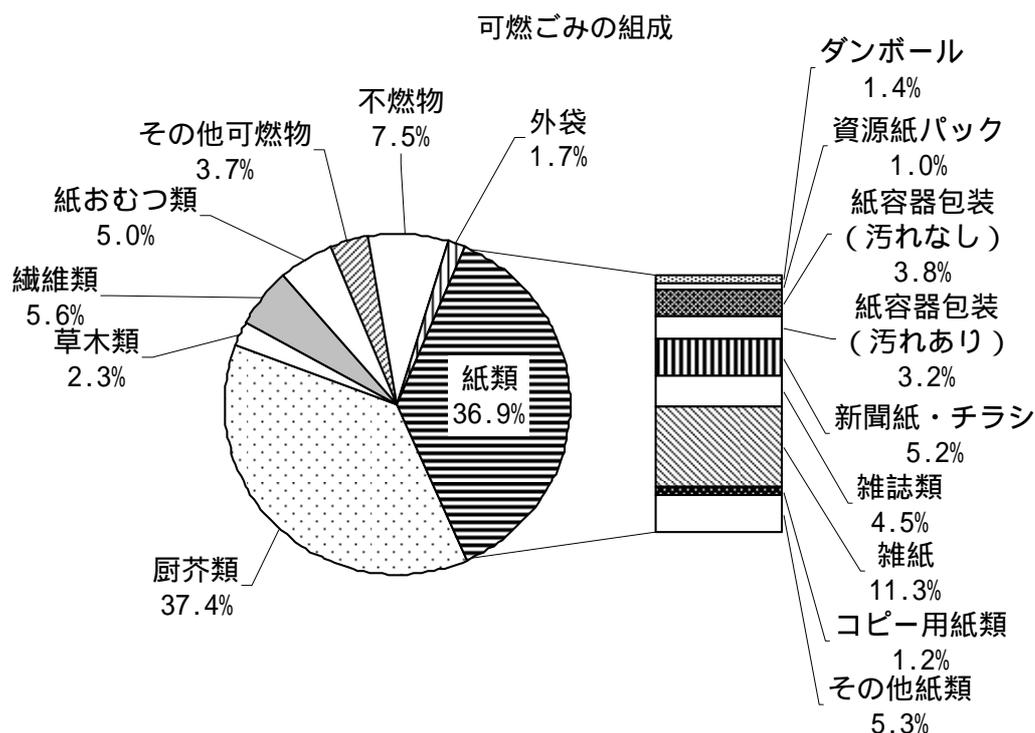
組成調査分類表

No	種類	分類項目	例
1	塵芥類	未使用食品	未開封の食品、賞味期限切れの食品など、主に容器包装に入ったままのもの
2		調理くず、残飯等	生ごみ(調理くず)、コーヒーかす、茶殻等
3	紙類	ダンボール	ボール紙製の緩衝芯のあるもの
4		資源紙パック	牛乳、ジュース等のアルミの張ってないもの
5		紙容器包装(汚れなし)	菓子箱、ボール箱、紙袋、包装紙 (食品等に直接触れないもの)
6		紙容器包装(汚れあり)	アルミ蒸着紙パック、カップめんのかた、洗剤容器 (食品等に直接触れるもの)
7		新聞紙・チラシ	
8		雑誌類・書籍類	週刊誌、月刊誌、単行本、小説、パンフレット、ノート
9		雑紙	ダイレクトメール、はがき等、名刺以上の大きさのあるリサイクル可能な紙類
10	オフィス系紙類	コピー用紙、伝票、図面等、事業所から出された紙類のみ	
11	その他紙類	ティッシュペーパー、写真、感熱紙等、リサイクル不適な紙類	
12	草木類	剪定枝	剪定枝、落ち葉、木箱、本棚、割箸、草花、麻ひも、木製の玩具、コルク等
13	繊維類		古着、シャツ、セーター、タオル、靴下、下着など
14	紙おむつ類		紙おむつ、生理用品
15	その他可燃物		湿布、ぬいぐるみ、タバコの吸殻等
16	プラスチック類	ペットボトル	飲料、酒、醤油等のペットボトル
17		その他のペットボトル	みりん風調味料、めんつゆ等
18		ボトル容器	シャンプー、洗剤、調味料(みりん風調味料、めんつゆ等以外)のボトル
19		チューブ類	マヨネーズ、歯磨き粉などの容器
20		発泡スチロール	発泡スチロール、緩衝材など
21		資源発泡トレイ(白)	発泡系トレイ(白色のみ)
22		発泡トレイ(色・柄)	発泡系トレイ(色・柄付き)
23		弁当ガラ(汚れあり)	弁当箱等
24		弁当ガラ(汚れなし)	弁当箱等
25		その他プラ容器・包装(汚れあり)	容器、レトルト食品袋、食品等の包装袋、フィルム等
26		その他プラ容器・包装(汚れなし)	卵パック、衣類等の外装ケース、タバコの包装フィルム等
27		レジ袋(内袋)	ごみを入れる内袋として利用されているレジ袋
28		レジ袋(ごみ袋)	ごみとして出されたレジ袋
29		その他プラスチック製品	おもちゃ、CDケース、歯ブラシ、プリンター等
30	ゴム・皮革類		かばん、くつ、ベルト、革ジャン等
31	陶磁器・石類		食器、植木鉢等
32	金属類	アルミ缶	アルミ製の飲料缶、食料缶、容器のふた等
33		スチール缶	スチール製の飲料缶、食料缶、容器のふた等
34		その他金属容器	塗料缶、一斗缶等
35		金属製品	なべ、やかん、ハンガー、アルミ箔等
36	びん・ガラス	リターナブルびん	ビールびん、一升びん等
37		無色雑びん	
38		茶色雑びん	
39		その他色雑びん	
40		資源回収不適なびん	薬品、化粧品などのびん等
41		びん・ガラス製品	板ガラス、ガラスコップ、耐熱ガラス等
42	土砂・残土・灰		
43	有害・危険物	蛍光管	
44		乾電池(筒型)	単3電池等
45		乾電池(その他)	ボタン電池、充電型電池等
46		スプレー缶	スプレー缶、カセットボンベ
47		ライター	
48	小型家電製品		
49	その他不燃物		かさ、携帯カイロ、乾燥剤、体温計・温度計、医療系廃棄物等
50	ごみ排出時外袋	レジ袋	
51		プラスチック製の袋	
52		その他	

2. 調査結果

可燃ごみの平均組成（ディスポーザー設置住宅を除く 5 地域の平均組成）は、「厨芥類」（37.4%）「紙類」（36.9%）がともに高く、次に「繊維類」（5.6%）「紙おむつ類」（5.0%）となっている。

「紙類」の内訳は、「雑紙」が多く（11.3%）、次に「新聞・チラシ」（5.2%）「雑誌類」（4.5%）である。



地域別にみると、「厨芥類」の割合は「戸建住宅地域」、「集合住宅地域（管理良好）」、「集合住宅地域（管理不良）」で高いが、「単身集合住宅地域」、「住商混合地域」では低い。「単身集合住宅地域」の組成を見ると「紙類」の割合が 50.4%と高くなっている。

また、「ディスポーザー設置住宅」の「厨芥類」の割合は 35.3%であり、「戸建て住宅地域」、「集合住宅地域（管理要綱）」、「集合住宅地域（管理不良）」と比較して 5～10%程度低くなっている。

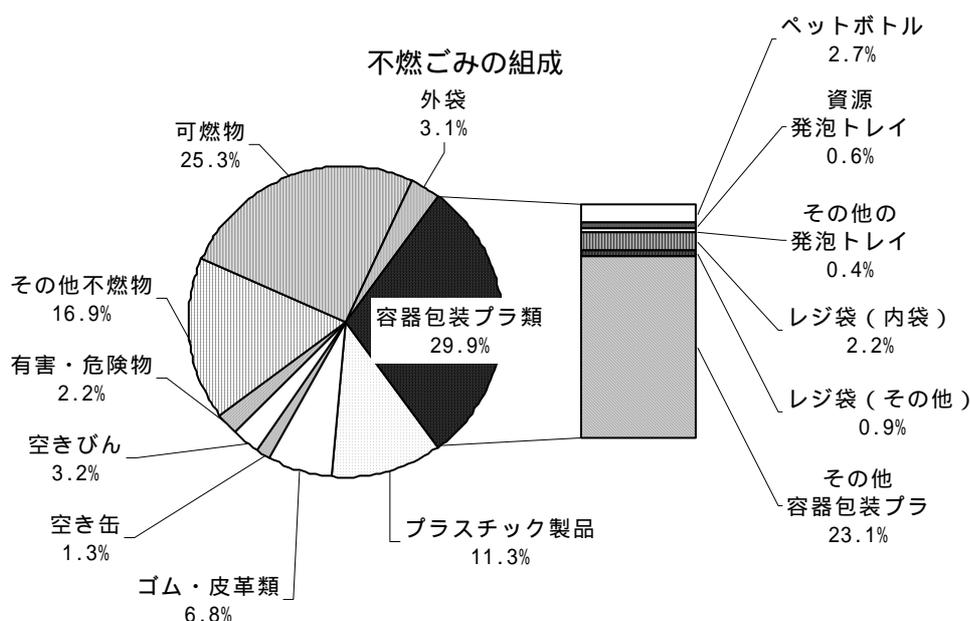
可燃ごみの地域別組成

可燃ごみ平均		戸建住宅地域	集合住宅地域 (管理良好)	集合住宅地域 (管理不良)	単身集合住宅地域	住商混合地域	平均	ディスプレイ設置住宅
厨芥類		46.6%	41.9%	41.0%	27.9%	29.4%	37.4%	35.3%
紙類	小計	29.8%	32.6%	32.3%	50.4%	39.2%	36.9%	34.1%
	ダンボール	1.1%	0.0%	0.5%	3.3%	2.1%	1.4%	0.1%
	資源紙バック	0.4%	0.6%	0.8%	2.2%	1.0%	1.0%	0.3%
	紙容器包装	1.8%	3.3%	3.2%	5.5%	5.3%	3.8%	5.0%
	紙容器包装	3.4%	3.7%	3.4%	2.7%	2.7%	3.2%	4.5%
	新聞紙・チラシ	4.4%	7.7%	5.4%	3.2%	5.4%	5.2%	0.7%
	雑誌類	5.8%	1.2%	3.2%	7.4%	5.1%	4.5%	4.0%
	雑紙	7.4%	11.2%	9.5%	19.4%	8.8%	11.3%	15.4%
	コピー用紙類	1.7%	0.0%	1.1%	1.7%	1.5%	1.2%	0.0%
その他紙類	3.9%	5.0%	5.3%	5.1%	7.3%	5.3%	4.0%	
草木類		2.7%	2.4%	1.8%	0.7%	3.9%	2.3%	5.5%
繊維類		5.6%	4.5%	2.7%	8.9%	6.1%	5.6%	4.6%
紙おむつ類		3.8%	8.3%	3.3%	2.2%	7.6%	5.0%	9.8%
その他可燃物		1.4%	4.9%	5.4%	1.8%	5.0%	3.7%	0.7%
不燃物		7.5%	4.2%	12.2%	6.2%	7.3%	7.5%	9.1%
外袋		2.6%	1.2%	1.2%	2.0%	1.4%	1.7%	1.0%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

小数点以下の端数処理をしていないため、合計欄の数値と合計が合わない場合がある。

(2) 不燃ごみ

不燃ごみの平均組成は、「容器包装プラ類」の割合が29.9%と最も高く、次に「プラスチック製品」の11.3%、「ゴム・皮革類」6.8%となっている。「容器包装プラスチック」では、多くが「その他容器包装プラ」(23.1%)で、次に「ペットボトル」(2.7%)、「レジ袋(内袋)」(2.2%)である。また「可燃物」は25.3%であり、内訳は、「紙類」(10.7%)、「厨芥類」(9.3%)、「その他可燃物」(5.2%)である。



地域別に組成をみると、「容器包装プラスチック」は「集合住宅地域(管理良好)」で46.6%と高く、「集合住宅地域(管理不良)」では15.6%であり、約30%程度の開きがある。また、「その他不燃物」も地域により変化が大きい、主に小型家電の有無による違いである。

本来可燃ごみに分別されるべき「厨芥類」と「紙類」についてみると、「厨芥類」は「単身集合住宅地域」で17.2%と高く、「紙類」は「戸建住宅地域」(16.2%)、「集合住宅地域(管理不良)」(17.8%)で高い。

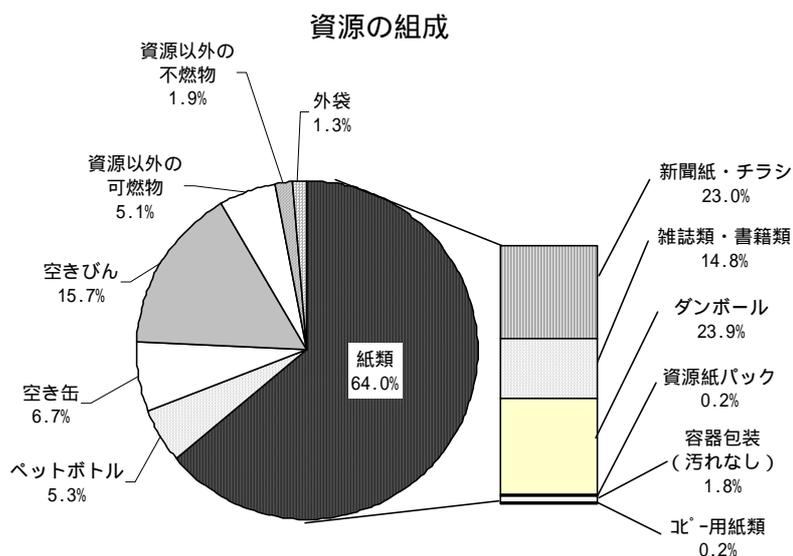
不燃ごみの地域別組成

不燃ごみ		戸建住宅地域	集合住宅地域 (管理良好)	集合住宅地域 (管理不良)	単身集合住宅地域	住商混合地域	平均
容器包装 プラスチック	小計	25.9%	46.6%	15.6%	25.1%	36.4%	29.9%
	ペットボトル	2.5%	1.5%	1.8%	2.6%	5.0%	2.7%
	資源発泡トレイ	0.4%	0.8%	0.6%	0.4%	1.0%	0.6%
	その他の発泡トレイ	0.4%	0.7%	0.3%	0.3%	0.5%	0.4%
	レジ袋(内袋)	1.7%	3.4%	1.4%	2.3%	2.2%	2.2%
	レジ袋(その他)	1.1%	1.0%	0.3%	1.4%	0.7%	0.9%
	その他容器包装プラ	19.9%	39.1%	11.2%	18.0%	27.2%	23.1%
プラスチック製品		7.0%	14.4%	16.9%	8.1%	10.3%	11.3%
ゴム・皮革類		2.3%	5.6%	19.6%	4.6%	2.1%	6.8%
空き缶		0.4%	1.2%	1.7%	1.6%	1.6%	1.3%
空きびん		2.3%	1.7%	0.3%	3.8%	7.7%	3.2%
有害・危険物		1.6%	1.4%	1.2%	5.9%	0.7%	2.2%
その他不燃物		30.6%	7.0%	14.2%	20.5%	12.3%	16.9%
可燃物	小計	26.8%	18.4%	28.0%	27.6%	25.6%	25.3%
	厨芥類	8.2%	9.1%	3.5%	17.2%	8.6%	9.3%
	紙類	16.2%	5.7%	17.8%	7.2%	6.8%	10.7%
	その他可燃物	2.4%	3.6%	6.6%	3.1%	10.1%	5.2%
外袋		3.1%	3.7%	2.5%	2.9%	3.3%	3.1%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

小数点以下の端数処理をしていないため、合計欄の数値と合計が合わない場合がある。

(3) 資源

資源の平均組成は、「紙類」が 64.0%と最も高く、次に「空きびん」(15.7%)、「空き缶」(6.7%)、「ペットボトル」(5.3%)である。「資源以外の可燃物」は 5.1%、「資源以外の不燃物」は 1.9%で、異物は合わせて 7%である。



地域別にみると、「紙類」は概ね 7 ~ 8 割であるが、「集合住宅地域(管理不良)」で 4.9%と低く、一方「空きびん」、「空き缶」や「資源以外の可燃物」の割合が高い。

異物混入率(「資源以外の可燃物」及び「資源以外の不燃物」の合計)をみると、「集合住宅地域(管理不良)」が 26.6%と高い。

資源の地域別組成

資源ごみ		戸建住宅地域	集合住宅地域(管理良好)	集合住宅地域(管理不良)	単身集合住宅地域	住商混合地域	平均
紙類	小計	76.2%	83.8%	4.9%	75.5%	79.6%	64.0%
	新聞紙・チラシ	19.1%	31.1%	0.9%	46.3%	17.4%	23.0%
	雑誌類・書籍類	39.0%	16.2%	2.5%	9.0%	7.3%	14.8%
	ダンボール	14.4%	34.3%	1.2%	17.1%	52.6%	23.9%
	資源紙パック	0.1%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.2%
	コピー用紙類	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
	紙容器包装(汚れなし)	2.4%	2.0%	0.2%	2.7%	1.9%	1.8%
ペットボトル	3.1%	5.1%	7.2%	2.0%	9.0%	5.3%	
空き缶	5.2%	1.8%	19.3%	5.0%	2.4%	6.7%	
空きびん	12.1%	7.0%	37.8%	14.4%	7.2%	15.7%	
資源以外	小計	2.3%	1.8%	26.6%	3.0%	1.6%	7.1%
	資源以外の可燃物	0.2%	1.6%	21.1%	1.2%	1.5%	5.1%
	資源以外の不燃物	2.1%	0.2%	5.5%	1.7%	0.1%	1.9%
外袋	1.1%	0.5%	4.3%	0.2%	0.2%	1.3%	
合計		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

小数点以下の端数処理をしていないため、合計欄の数値と合計が合わない場合がある。

家庭ごみ組成分析調査結果（モデル回収実施地区）

1. 調査概要

調査対象地区及び調査日程

モデル回収実施地区の南麻布、西麻布、赤坂、南青山、北青山、白金を対象に、モデル回収の開始（10月）の実施前の9月、モデル回収実施1ヶ月後の11月、3ヶ月後の1月と3回実施した。

また、モデル回収実施前は、可燃ごみ、不燃ごみ、資源を、モデル回収実施後は、さらにプラスチックを加えた。なお、可燃ごみは週2回の収集があるが、調査はそのうちの1回について行った。

調査方法

上記地域の集積所からサンプルとなるごみ・資源を収集し、みなと清掃事務所に搬入して実施した。サンプルの試料が多い場合は4分法で縮分し、少ない場合は縮分せずに全量分析した。

調査方法は、「家庭ごみ組成分析調査（モデル地区以外の通常地域）」と同様である。

分類項目

分類は、「家庭ごみ組成分析調査（モデル地区以外の通常地域）」と同様に52種類に分類した。

2. 調査結果

(1) 可燃ごみ

可燃ごみの組成は、「厨芥類」の割合がもっとも高いが、9月、11月、1月と減少傾向となっている。また、次に割合が高い「紙類」は、内訳による増減があるが、全体としてはほぼ同じ割合である。

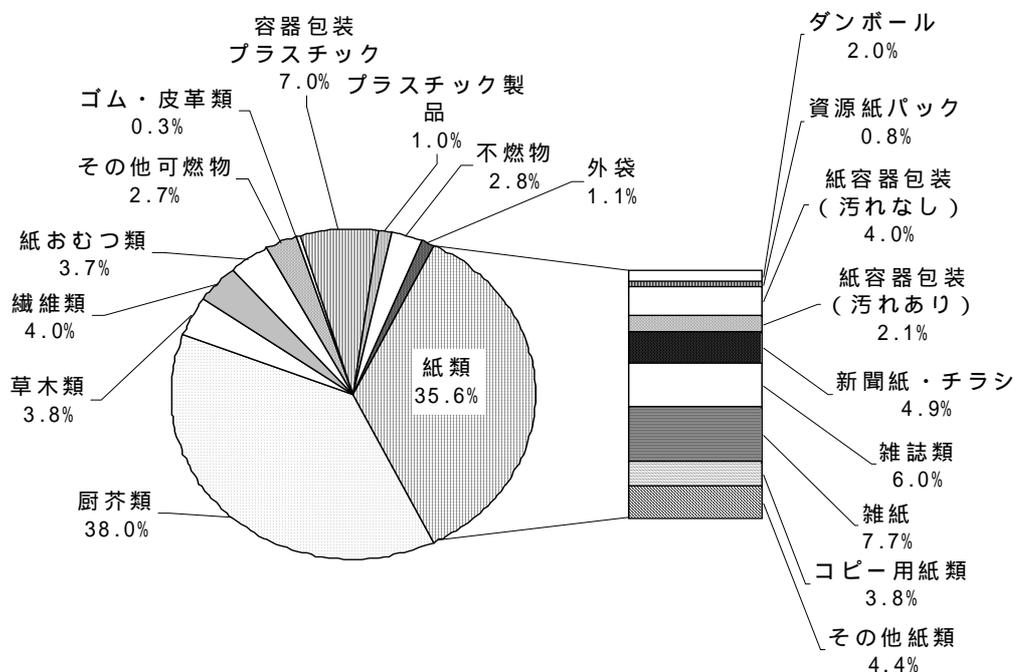
分別変更した「プラスチック類」は、住民に分別が浸透してきたことを反映して、1月には8.0%に増加した。「1月-9月」(1月の割合から9月の割合を差し引いたもの)をみても、「プラスチック」の増加が4.5%ともっとも大きく、分別の変更を反映した結果となった。また、分別の変更をした「ゴム・皮革類」は、割合そのものが低いために大きな変化が見られなかった。

可燃ごみの品目別組成

可燃ごみ		9月	11月	1月	1月-9月
厨芥類		42.7%	38.7%	38.0%	-4.6%
紙類	小計	34.9%	35.6%	35.6%	0.7%
	ダンボール	1.4%	2.0%	2.0%	0.6%
	資源紙パック	0.9%	0.7%	0.8%	-0.1%
	紙容器包装(汚れなし)	5.8%	3.4%	4.0%	-1.8%
	紙容器包装(汚れあり)	0.4%	2.9%	2.1%	1.8%
	新聞紙・チラシ	10.1%	7.6%	4.9%	-5.3%
	雑誌類	4.3%	3.4%	6.0%	1.7%
	雑紙	6.3%	9.4%	7.7%	1.4%
	コピー用紙類	1.4%	2.2%	3.8%	2.4%
	その他紙類	4.2%	4.0%	4.4%	0.1%
草木類		4.1%	4.6%	3.8%	-0.3%
繊維類		4.7%	5.0%	4.0%	-0.7%
紙おむつ類		3.2%	4.1%	3.7%	0.5%
その他可燃物		4.0%	1.8%	2.7%	-1.3%
ゴム・皮革類		0.1%	1.1%	0.3%	0.2%
プラスチック類	小計	3.5%	5.1%	8.0%	4.5%
	容器包装プラスチック	3.2%	3.4%	7.0%	3.8%
	プラスチック製品	0.3%	1.7%	1.0%	0.7%
不燃物		2.0%	2.7%	2.8%	0.7%
外袋		0.9%	1.3%	1.1%	0.3%
合計		100.0%	100.0%	100.0%	

小数点以下の端数処理をしていないため、合計欄の数値と合計が合わない場合がある。

平成 20 年 1 月の可燃ごみの組成



(2) 不燃ごみ

不燃ごみの組成は、月によってばらつきが大きく、特に 11 月の組成は 9 月、1 月と比べ大きく異なる。

「プラスチック類」は、9 月の 46.4% から 11 月の 31.7% へと減少がみられたが、1 月は 40.6% と増加した。「ゴム・皮革類」は、低下傾向がみられるが、そもそも全体に占める割合が低いので、減少の割合は低い。

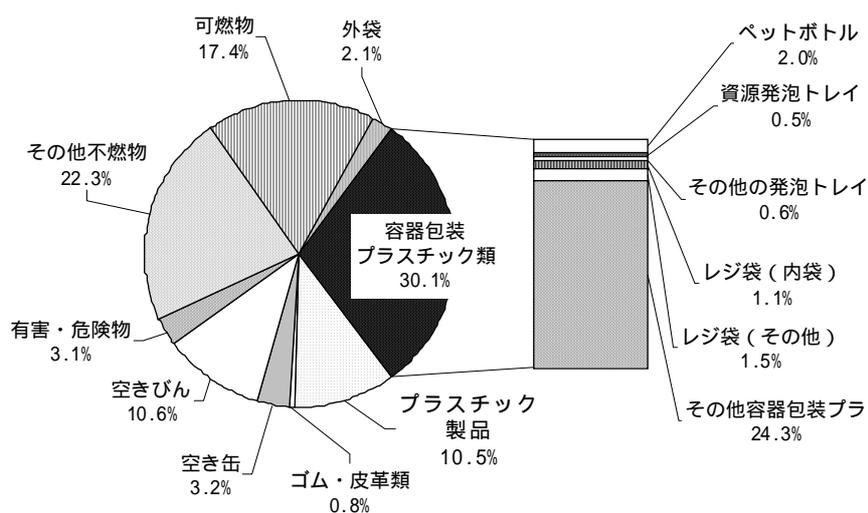
分別変更に伴い「プラスチック類」、「ゴム・皮革類」の割合は減少しており、モデル事業の結果を反映した結果となった。

不燃ごみの品目別組成

不燃ごみ	9月	11月	1月	1月-9月
プラスチック類	46.4%	31.7%	40.6%	-5.8%
容器包装プラスチック	27.3%	20.0%	30.1%	2.8%
ペットボトル	4.1%	3.1%	2.0%	-2.1%
資源発泡トレイ	0.3%	0.3%	0.5%	0.2%
その他の発泡トレイ	0.6%	0.7%	0.6%	0.0%
レジ袋(内袋)	1.1%	0.9%	1.1%	0.1%
レジ袋(その他)	0.5%	0.4%	1.5%	1.0%
その他容器包装プラ	20.8%	14.6%	24.3%	3.5%
プラスチック製品	19.0%	11.7%	10.5%	-8.5%
ゴム・皮革類	3.2%	1.8%	0.8%	-2.4%
空き缶	5.6%	1.1%	3.2%	-2.4%
空きびん	4.7%	5.3%	10.6%	5.9%
有害・危険物	2.3%	1.6%	3.1%	0.8%
その他不燃物	21.8%	28.0%	22.3%	0.5%
可燃物	14.5%	28.1%	17.4%	2.9%
外袋	1.5%	2.5%	2.1%	0.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	

小数点以下の端数処理をしていないため、合計欄の数値と合計が合わない場合がある。

平成 20 年 1 月の不燃ごみの組成



(3) 資源

資源の組成は、9月から11月、1月へと徐々に変化している。割合がもっとも高い「紙類」は、徐々に減少している。また、次に割合が高い「空きびん」は徐々に増加している。

資源においては分別変更の直接的な影響はないため、これらの変化は分別変更以外の要因であると考えられる。

資源の品目別組成

	9月	11月	1月	1月-9月
紙類	72.3%	67.4%	60.9%	-11.4%
新聞紙・チラシ	24.8%	25.5%	26.6%	1.8%
雑誌類・書籍類	18.7%	21.8%	16.6%	-2.1%
ダンボール	25.0%	19.5%	16.7%	-8.4%
資源紙パック	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
紙容器包装(汚れなし)	3.5%	0.6%	0.8%	-2.8%
コピー用紙類	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
ペットボトル	5.1%	6.4%	3.6%	-1.5%
空き缶	3.7%	5.6%	6.0%	2.3%
空きびん	11.4%	15.6%	19.3%	8.0%
資源以外	7.0%	4.1%	9.9%	2.8%
プラスチック類	0.5%	0.3%	0.1%	-0.4%
資源以外の可燃物	4.8%	2.8%	8.4%	3.5%
資源以外の不燃物	1.7%	1.1%	1.4%	-0.3%
外袋	0.6%	0.9%	0.3%	-0.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	

小数点以下の端数処理をしていないため、合計欄の数値と合計が合わない場合がある。

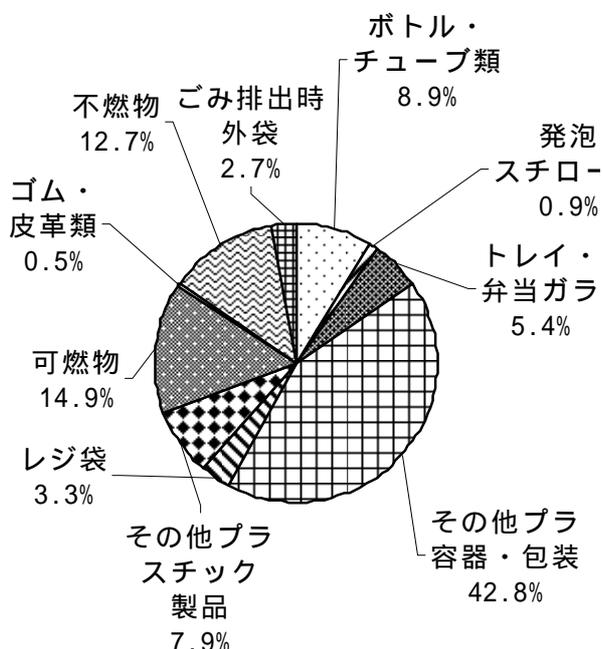
(4) プラスチック資源

プラスチック資源の11月の組成をみると、「その他プラ容器・包装」の割合が42.8%と最も高く、次に「可燃物」(14.9%)、「不燃物」(12.7%)、「ボトル・チューブ」(8.9%)、「その他プラスチック製品」(7.9%)である。

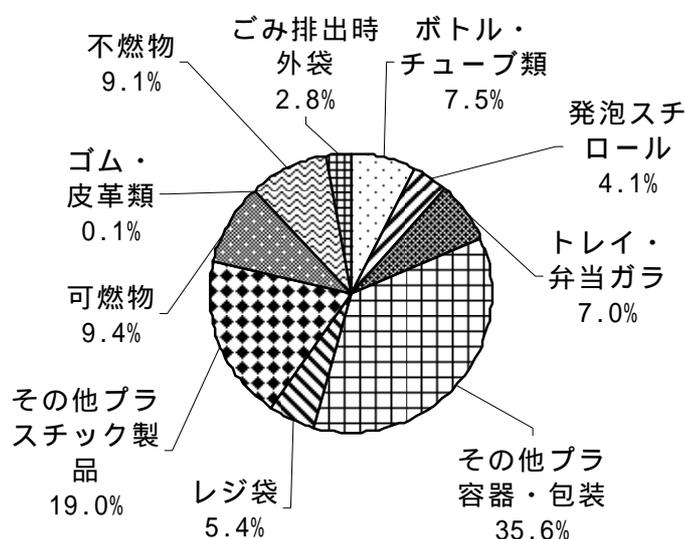
一方1月の組成をみると、「その他プラ容器・包装」の割合が35.6%と高く、次に「その他プラスチック製品」(19.0%)、「可燃ごみ」(9.4%)、「不燃ごみ」(9.1%)、「ボトル・チューブ類」(7.5%)、「トレイ・弁当ガラ」(7.0%)である。

11月と1月を比べると、可燃物、不燃物の割合が減少し、分別が良くなってきたことがわかる。

プラスチック資源の組成（11月）



プラスチック資源の組成（1月）



プラスチック資源の分別では、汚れの落ちないプラスチックは可燃ごみに出すことになっている。プラスチックの容器包装材の汚れは、主に食品関係の容器包装で食品が中に付着したままのものが多く、今回の組成調査では「弁当ガラ」と「その他プラ容器・包装」を「汚れあり」と「汚れなし」の2つに分類している。他のプラスチックは汚れの有無では分類していないために、すべて汚れがないものとして、プラスチックを「汚れあり」と「汚れなし」で分類した。11月と1月を比較すると1月は「プラスチック類（汚れあり）」が減少し、「プラスチック類（汚れなし）」が増加している。

1月は11月と比較してプラスチック以外の異物の混入も減少しているが、プラスチックそのものの洗浄等も行われるようになったものと考えられる。

プラスチック資源の組成（汚れの有無別）

	南麻布	西麻布	赤坂	南青山	北青山	白金	1月平均	11月平均
可燃物	11.5%	9.1%	7.5%	2.6%	10.8%	15.0%	9.4%	14.9%
プラスチック類(汚れなし)	48.2%	53.4%	46.5%	52.5%	42.0%	30.9%	45.6%	27.2%
プラスチック類(汚れあり)	33.8%	20.9%	35.7%	37.7%	31.0%	38.7%	33.0%	42.0%
ゴム・皮革類	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.5%
不燃物	5.3%	14.1%	7.8%	3.8%	10.9%	12.8%	9.1%	12.7%
ごみ排出時外袋	1.1%	2.0%	2.5%	3.4%	5.3%	2.6%	2.8%	2.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

小数点以下の端数処理をしていないため、合計欄の数値と合計が合わない場合がある

家庭ごみ排出原単位調査

1. 調査概要

調査対象地区及び日程

通常地区及びモデル地区から概ね 10 か所程度の集積所を予め選んで実施した。調査地は、複数の候補地を選び、調査日の朝にごみ出しを行う集積所（管理人のごみ出しや前日からのごみ出しが少ない場所）を選んで実施した。

調査方法

集積所 1～2 か所に 1 人ずつ調査員を配置し、ごみ排出に来た区民に調査協力を依頼し、協力の意思を確認後、家族人数及び何日分のごみ及び資源かについて尋ね、ごみの重量を計測した。また、1人世帯の場合は、年齢で 30 歳未満か 30 歳以上かを判断して分類した。

集計方法

1 人 1 日あたりのごみ量は、ごみや資源の種類ごとに下記のような方法で求めた。

総ごみ量：ごみや資源の種類別に重量を合計

総人日：「家族人数」×「何日分のごみ」で「人日」を求め、それらをごみや資源ごとに合計

1 人 1 日あたりのごみ量：(総ごみ量) / (総人日) で算出

2. 調査結果

(1) 家族人数別データ

サンプル数

サンプル数は「総計」では 536、「モデル地区計」では 300、「通常地区計」では 236 であった。なお、可燃ごみは週 2 回調査を実施し、第 1 回目を「可燃 1」、第 2 回目を「可燃 2」とした。ごみ種別家族人数別のデータの詳細は下記の通りである。

サンプル数

(件)

	家族人数	可燃1	可燃2	不燃	資源	資源プラスチック	総計
モデル地区	1人世帯	12	12	8	9	4	45
	2人世帯	17	21	11	12	11	72
	3人世帯	16	18	12	13	13	72
	4人世帯	13	24	16	14	16	83
	5人世帯	4	5	1	2	4	16
	6人世帯	2	3	1	1	2	9
	7人世帯		1	1	1		3
モデル地区計		64	84	50	52	50	300
通常地区	1人世帯	9	15	12	16		52
	2人世帯	17	24	15	14		70
	3人世帯	12	20	12	13		57
	4人世帯	9	12	8	7		36
	5人世帯	6	4	2	3		15
	6人世帯	1	3		1		5
	7人世帯	1					1
通常地区計		55	78	49	54		236
総計		119	162	99	106	50	536

1人1日あたりのごみ量

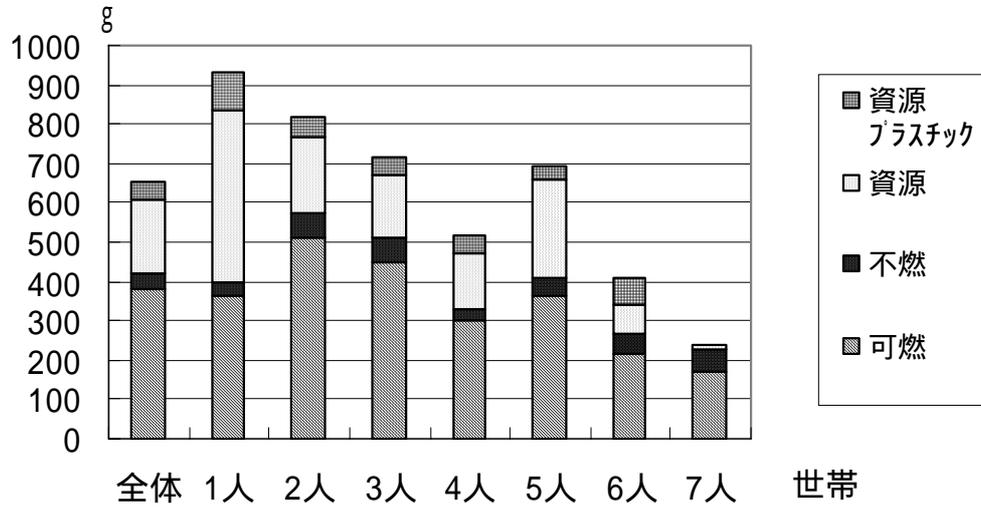
「1人1日あたりの重量」は通常地区計で753g、モデル地区計で654gであった。ごみ種別家族人数別のデータの詳細は下記の通りである。

1人1日あたりの重量

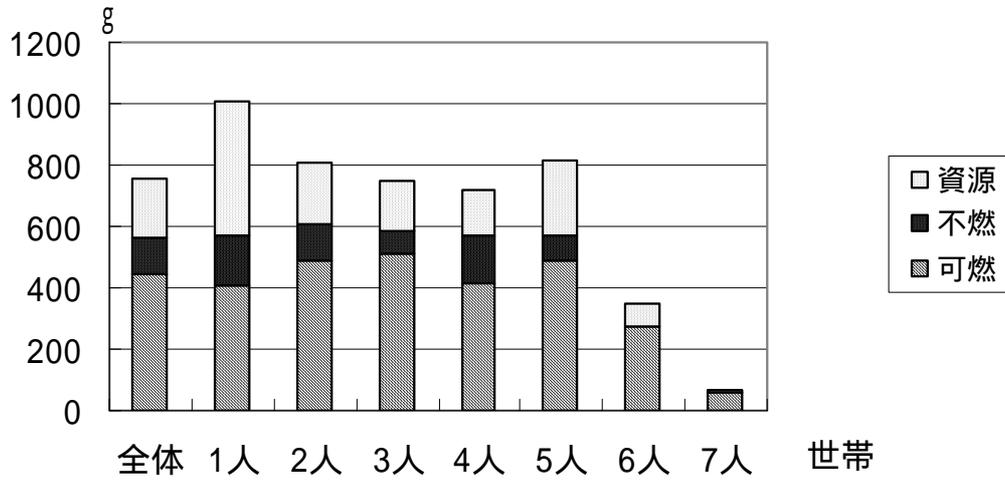
(g)

	家族人数	可燃	不燃	資源	資源プラスチック	総計
モデル地区	1人世帯	362	35	437	100	934
	2人世帯	514	58	197	53	821
	3人世帯	446	64	163	43	716
	4人世帯	303	25	144	44	516
	5人世帯	365	43	250	36	693
	6人世帯	219	48	74	71	412
	7人世帯	171	57	12		241
モデル地区計		378	41	188	47	654
通常地区	1人世帯	405	165	437		1,007
	2人世帯	489	120	197		805
	3人世帯	508	74	163		745
	4人世帯	413	159	144		715
	5人世帯	488	79	250		817
	6人世帯	271	0	74		345
	7人世帯	57	0	12		69
通常地区計		448	117	188		753

モデル地区の1人1日あたりのごみ量



通常地区の1人1日あたりのごみ量



(2) 単身者の区分

単身者のごみの排出実態は、ほとんど家に居る場合と逆にほとんど家に居ない場合とでは大きく異なると考えられる。そこで、単身者と答えた場合、年齢を(30歳未満、30歳以上)2分した。

サンプル数

サンプル数は「総計」では84、「モデル地区計」では39、「通常地域計」では45であった。単身者のデータは多くはないため、そのデータをさらに2区分すると、区分ごとのサンプル数は少なくなる。特に30歳未満のデータが少ない。

サンプル数 (件)

	単身者区分	可燃1	可燃2	不燃	資源	資源プラスチック	総計
モデル地区	30歳未満	1	4	1	1		7
	30歳以上	8	6	6	8	4	32
モデル地区計		9	10	7	9	4	39
通常地区	30歳未満	2	1	2	4		9
	30歳以上	6	14	8	8		36
通常地区計		8	15	10	12		45
総計		17	25	17	21	4	84

モデル地区では739g、通常地区では1,165gとなった。サンプル数が少ないため、参考値としてみる必要がある。

1人1日あたりの重量 (g)

	単身者区分	可燃	不燃	資源	資源プラスチック	総計
モデル地区	30歳未満	354	14	400		768
	30歳以上	398	33	206	100	738
モデル地区計		383	31	226	100	739
通常地区	30歳未満	407	71	971		1,450
	30歳以上	415	113	392		920
通常地区計		414	105	646		1,165
総計		401	76	450	100	1,026

区民アンケート調査

1. 調査概要

調査方法

20歳以上の区民 2000名を住民基本台帳から世帯ごとに無作為に抽出し、アンケートを送付。抽出は、資源プラスチックの分別モデル地区から500名(1/4)、それ以外の地区から1500名(3/4)と分けて行った。

発送は11月13日に郵便で行い、回収は12月末まで郵便で届いたものを集計した。

回収結果

発送数は2,000通、回答数は633通であった。転居先不明等で戻り数が50通で、これらを差し引いた有効回答数(1,950通)に対する回答の割合(回収率)は32.5%である。

2. 調査結果

回答者の概要

回答者の概要は以下のとおりである。

回答者の概要

問	回答	回答数	%
性別	男性	195	32.0%
	女性	414	68.0%
	計	609	100.0%
年齢	10歳代	0	0.0%
	20歳代	28	4.4%
	30歳代	125	19.7%
	40歳代	155	24.5%
	50歳代	150	23.7%
	60歳代	170	26.9%
	70歳代以上	5	0.8%
	計	633	100.0%
家族人数	1人	170	27.0%
	2人	179	28.4%
	3人	134	21.3%
	4人	115	18.3%
	5人	22	3.5%
	6人以上	10	1.6%
	計	630	100.0%
	住宅異形態	戸建住宅	103
集合住宅		480	75.9%
自営店舗、事務所併用の住宅		37	5.9%
その他		12	1.9%
計		632	100.0%

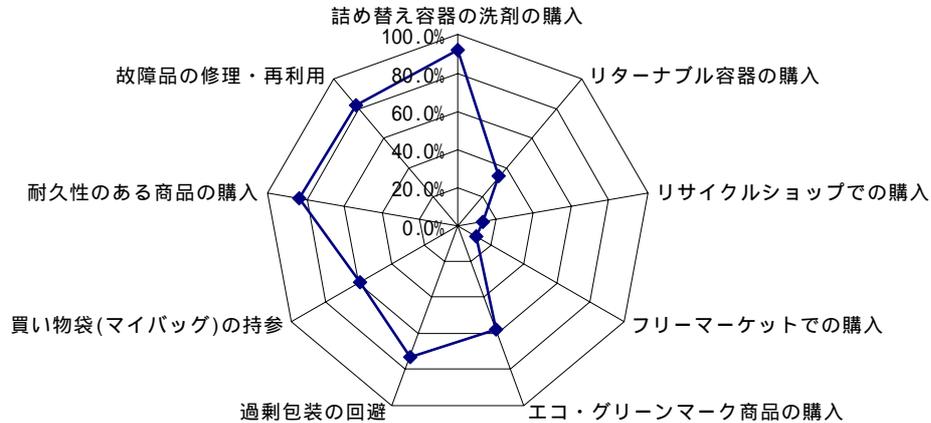
日頃の買い物について

日頃の買い物について行う割合（「行う」と「時々行う」割合の合計）でみる。行う割合が高いのは、「詰め替え容器洗剤の購入」（91.7%）、「耐久性のある商品の購入」（83.2%）、「故障品の修理・再利用」（81.9%）、「過剰包装の回避」（72.5%）である。

逆にを行う割合が低いものは、「フリーマーケットでの購入」（11.0%）、「リサイクルショップでの購入」（13.0%）、「リターナブル容器での購入」（33.3%）である。

環境配慮型の商品の選択という点でみた場合、「詰め替え容器の洗剤の購入」は普及しているが、「エコマーク・グリーンマーク商品の購入」の普及は十分でない。また買い物袋の持参も十分に浸透はしていないようである。

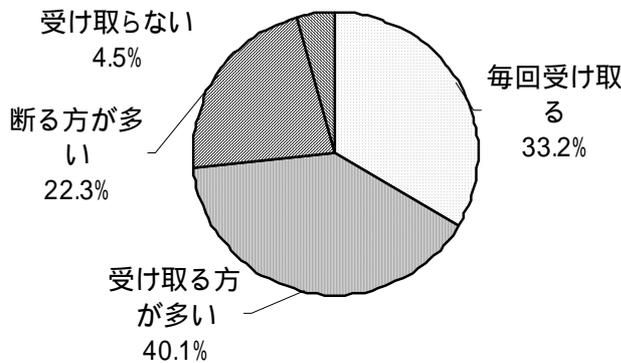
日頃の買い物（行う・時々行う）



レジ袋の受け取り

買い物をしたときのレジ袋の受け取りは、「受け取る方が多い」が40.1%と高く、次に「毎回受け取る」（33.2%）、「断る方が多い」（22.3%）となっている。

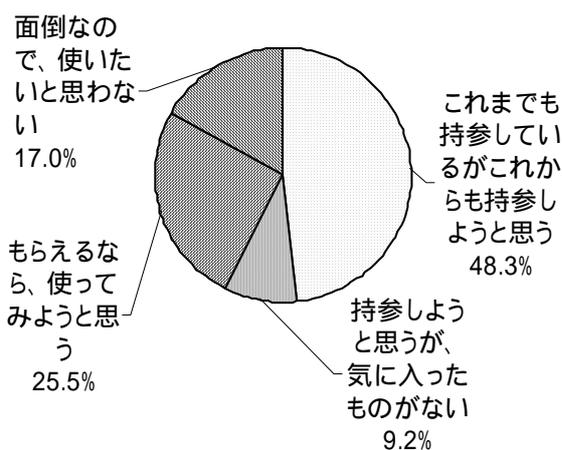
レジ袋の受け取り



マイバックについて

マイバックの使用については、「これまでも持参しているがこれからも持参しようと思う」が48.3%と最も高く、次に「もらえるなら使ってみようと思う」(25.5%)、「面倒なので使いたくないと思わない」(17.0%)、「持参しようと思うが気に入ったものがない」(9.2%)となっている。

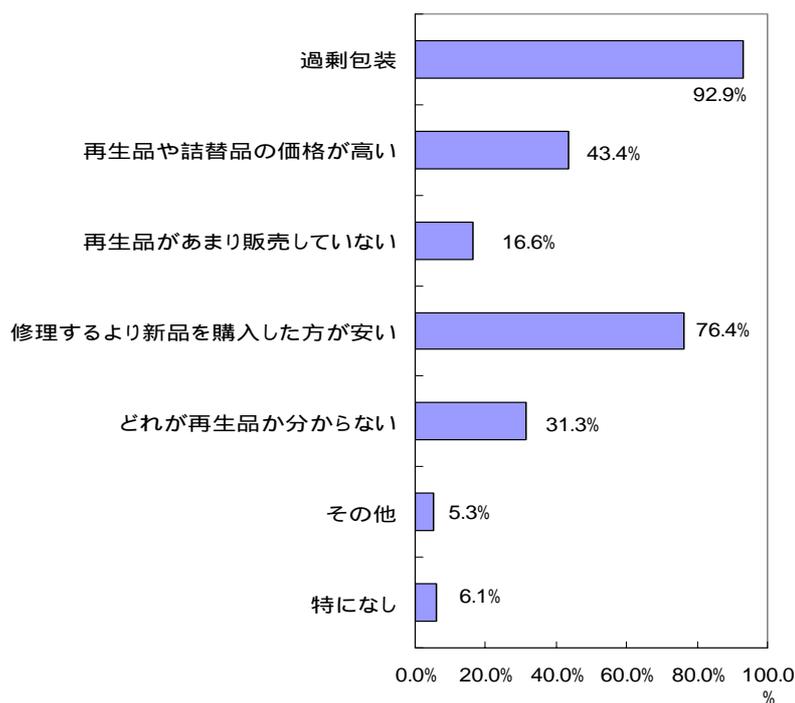
マイバックについて



日頃から問題だと思っていること

買い物に関することで、日頃から問題だと思っていることは、「過剰包装」(92.9%)、「修理するより新品を購入した方が安い」(76.4%)が高く、「再生品や詰め替え用品の価格が高い」(43.4%)、「どれが再生かわからない」(31.3%)はやや低い。過剰包装はほとんどの人が問題だと認識していることがわかる。

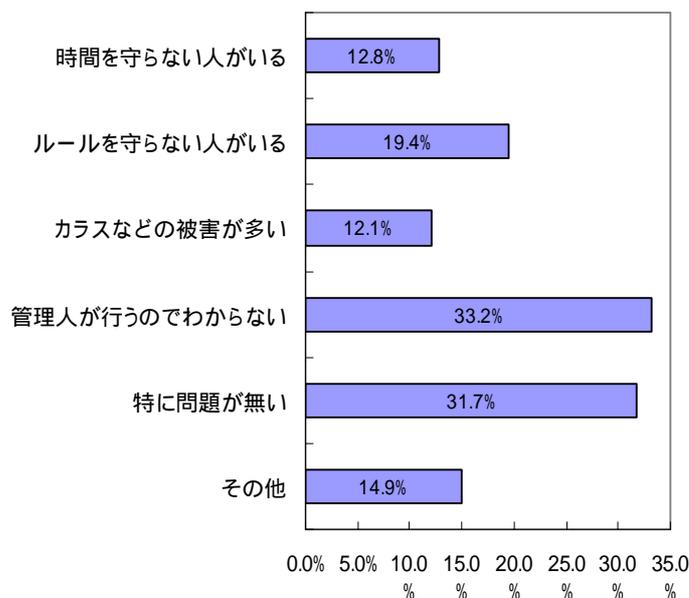
日頃から問題だと思っていること(複数回答)



ごみ排出で困っていること

ごみ排出で困っていることは、「管理人が行うのでわからない」(33.2%)や「特に問題がない」(31.7%)が多い。

ごみ排出について困ったこと(複数回答)

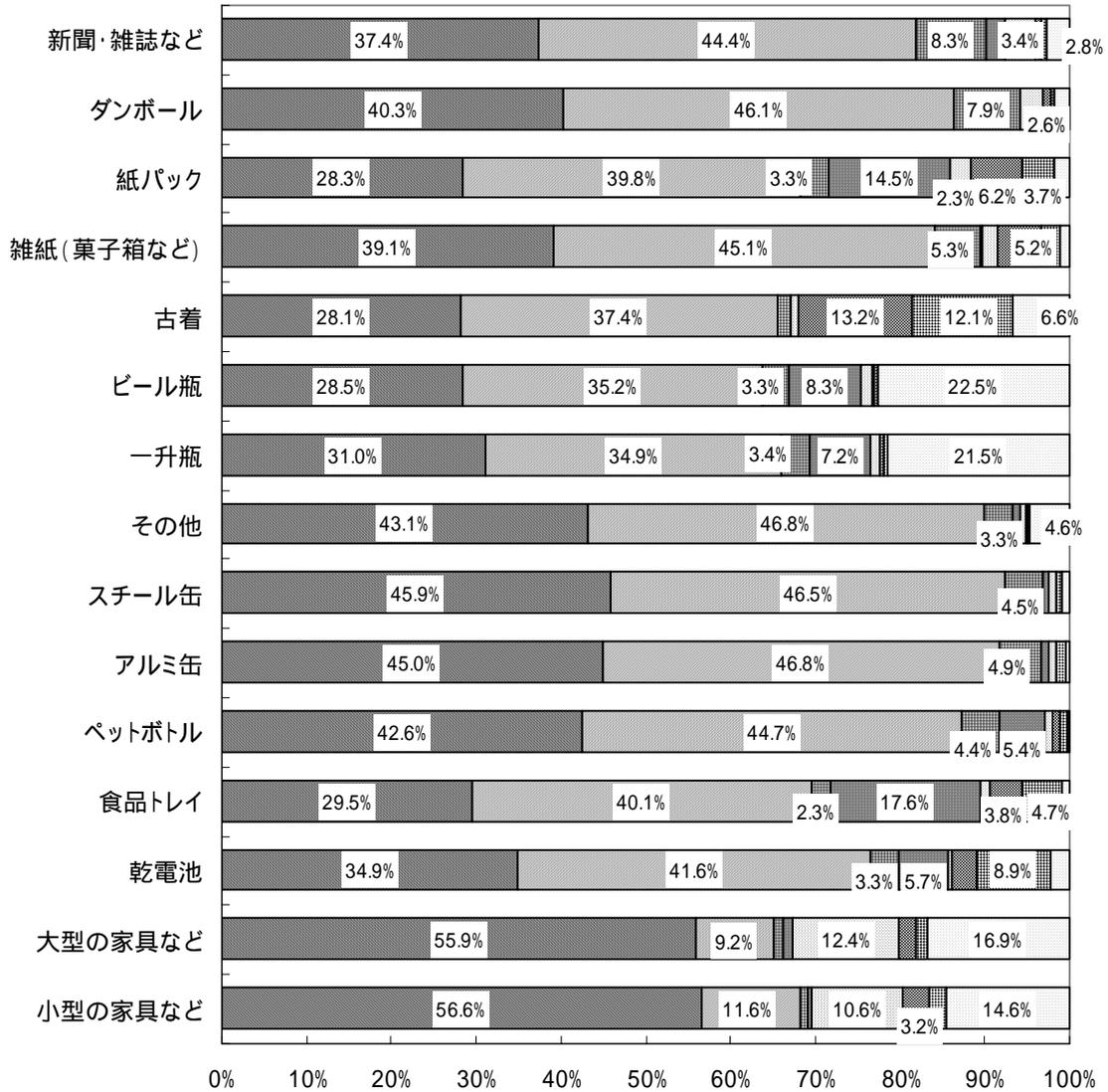


品目ごとの処理方法

品目ごとの処理方法は、「大型の家具など」及び「小型の家具など」を除くと、集合住宅の住民が多いこともあり、「集合住宅の保管場所」と回答が40%前後、「区の回収」が30%前後となっている。

特徴的なところは、「紙パック」「食品トレイ」で「販売店への返却」が15%前後であること、古着は「自宅で処理」が13%であること、さらに「ビールびん」、「一升瓶」で「発生しない」の割合が20%強となっていることである。

品目ごとの処理方法

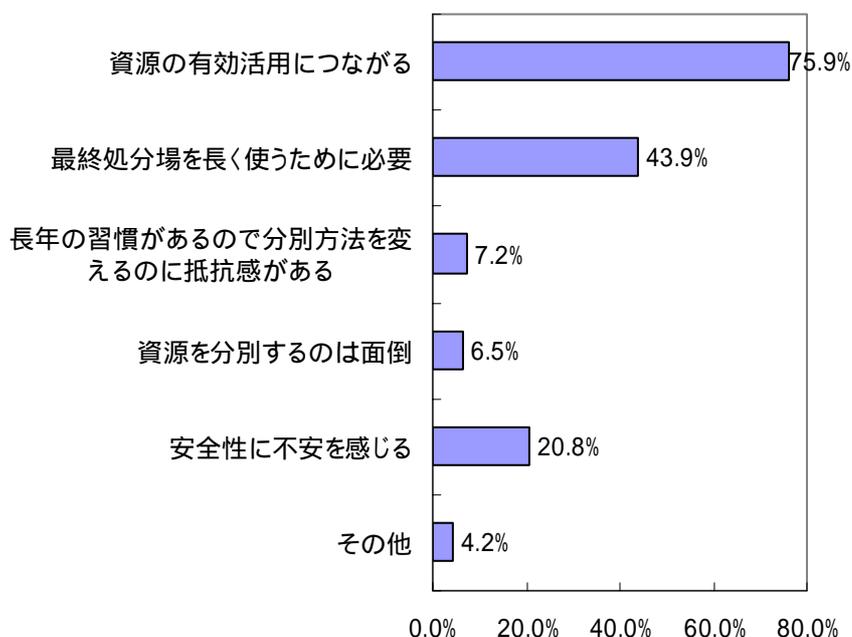


- 区の回収
- 集合住宅の保管場所
- 町会・自治会の集団回収
- 販売店への返却
- 業者による廃品回収
- 自宅で処理
- その他
- 発生しない

プラスチック等の分別区分の変更について

分類区分の変更については、「資源の有効活用につながる」が75.9%ともっとも高く、次に「最終処分場を長く使うため必要」(43.9%)と肯定的な意見の割合が高い。他方「安全性に不安を感じる」は20.8%であった。

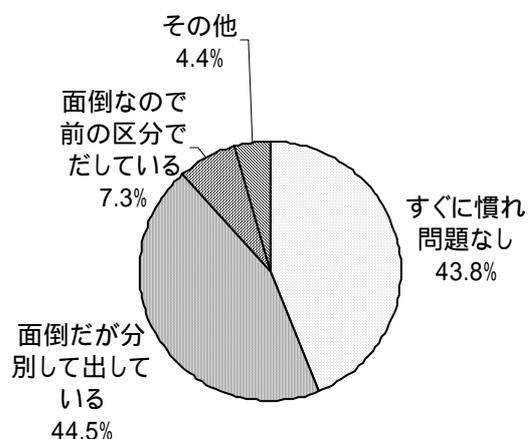
分類区分の変更について(複数回答)



実際分別してみた感想(モデル地区に住んでいると回答した人への質問)

モデル地域に居住していると自覚している人へ、実際に分別した感想を尋ねた。「面倒だが分別して出している」(44.5%)や「すぐに慣れて問題なし」(43.8%)が高く、全体で90%近くの人に参加協力している。

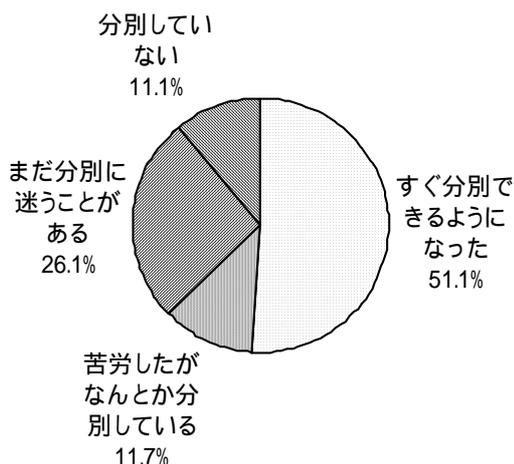
実際に分類してみた



資源プラスチックの分別の感想（モデル地区に住んでいると回答した人への質問）

資源プラスチックの分別については、「すぐ分別できるようになった」が51.1%と過半数を超えており、次に「まだ迷うことがある」(26.1%)、「苦労したが何とか分別している」(11.7%)となっている。

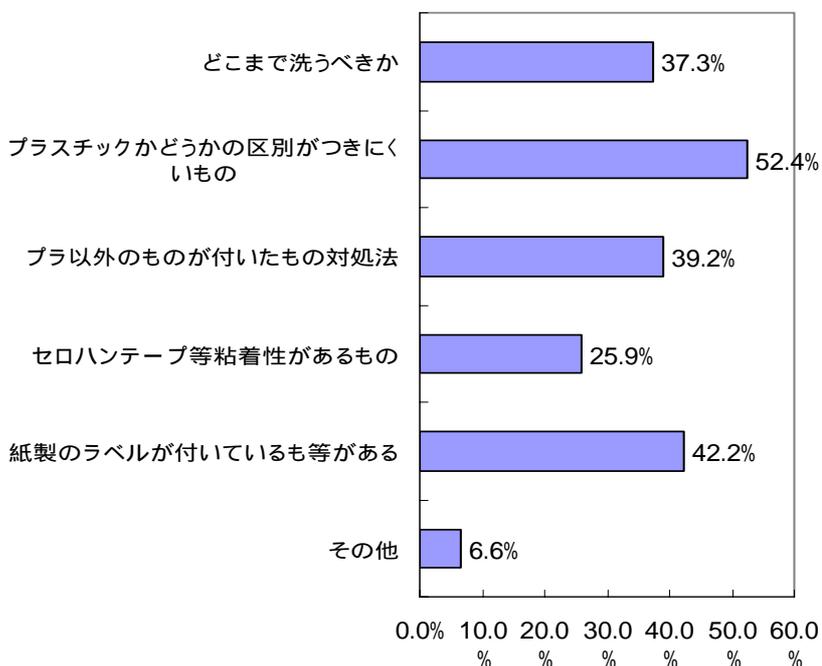
資源プラスチックの分別について



区にもっと力を入れてほしいこと（複数回答）

資源プラスチックの不明点は、「プラスチックかどうかの区別が付きにくいものがある」が52.4%ともっとも高く、次に「紙製ラベルがついている」(42.2%)、「プラ以外のものがついた場合の対処」(39.2%)となっている。

資源プラスチックの分別の不明点



事業所アンケート調査

1. 調査概要

調査方法

本調査は、区内の従業者数 30 人未満の事業所を、事業所・企業実態調査（総務省統計局）データから無作為に抽出して行った。

発送は 11 月 13 日に郵便で行い、12 月末までに郵便で届いたものを集計した。

回収結果

発送数は 1,000 通、回答数は 209 通であった。転居先不明等で戻り数が 179 通で、これらを差し引いた有効発送数は 821 通で、有効発送数に対する回答の割合（回収率）は 25.5% であった。

2. 調査結果

事業所の概要

問	回答	回答数	%
業種	出版・印刷関係業	6	2.9%
	製造業	10	4.8%
	個人タクシー	1	0.5%
	運輸・通信業	2	1.0%
	建設業	8	3.8%
	卸売業	16	7.7%
	小売業	21	10.1%
	飲食店	23	11.1%
	アパート賃貸業(個人経営)	5	2.4%
	不動産業(仲介・売買)	12	5.8%
	医療施設・福祉施設	10	4.8%
	教育・研究機関	1	0.5%
	IT関連	7	3.4%
	広告企画・製作関連	6	2.9%
	その他サービス業	33	15.9%
	宿泊施設	0	0.0%
	その他	47	22.6%
計	208	100.0%	
従業員人数	1～4人	112	55.7%
	5～9人	47	23.4%
	10～19人	34	16.9%
	20～29人	8	4.0%
	計	201	100.0%
延べ床面積	10㎡未満	10	5.0%
	10～20㎡	14	7.0%
	20～50㎡	57	28.5%
	50～100㎡	59	29.5%
	100～200㎡	38	19.0%
	200～500㎡	12	6.0%
	500～1000㎡	5	2.5%
	1000㎡以上	5	2.5%
計	200	100.0%	

資源化可能物の処理方法（事業所数ベース）

資源化が可能な品目について処理方法を尋ねた。処理方法の回答を事業所数ベースで見ると、全体としては、「区のごみ収集」、「区の資源収集」、「管理会社任せ」、「民間でごみ処理」の割合が高い。「管理会社任せ」とは、ごみの保管や排出は管理会社が行っており、誰が収集を行っているのか不明の場合である。ごみや資源の収集は、規模の大きな建物の場合は、民間業者による収集が考えられるが、比較的規模の小さな事務所ビルやマンションに入居する事務所の場合、区の収集に出される場合も想定される。

品目別処理方法（事業所数ベース）

品目	民間売却等	逆有償リサイクル	民間でごみ処理	納入業者回収	区のごみ収集	区の資源収集	管理会社任せ	計
新聞紙	4.5%	3.4%	13.5%	4.5%	18.0%	34.8%	21.3%	100.0%
雑誌	3.7%	3.7%	14.6%	2.4%	19.5%	36.6%	19.5%	100.0%
コピー用紙	2.4%	6.0%	18.1%	1.2%	32.5%	16.9%	22.9%	100.0%
電算用紙	6.3%	12.5%	12.5%	0.0%	25.0%	6.3%	37.5%	100.0%
機密文書	1.4%	4.3%	21.7%	1.4%	39.1%	7.2%	24.6%	100.0%
段ボール	3.5%	3.5%	15.1%	3.5%	14.0%	40.7%	19.8%	100.0%
空き缶	2.3%	3.4%	17.2%	3.4%	23.0%	26.4%	24.1%	100.0%
一斗缶	7.1%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	28.6%	35.7%	100.0%
ビールびん	5.9%	0.0%	11.8%	23.5%	0.0%	23.5%	35.3%	100.0%
一升びん	6.3%	0.0%	12.5%	18.8%	0.0%	25.0%	37.5%	100.0%
その他のびん	2.6%	5.1%	17.9%	10.3%	17.9%	25.6%	20.5%	100.0%
PETボトル	2.9%	2.9%	14.3%	2.9%	23.8%	28.6%	24.8%	100.0%
プラの弁当ガラ	1.2%	0.0%	21.2%	1.2%	47.1%	4.7%	24.7%	100.0%
食品トレイ	4.0%	0.0%	12.0%	0.0%	36.0%	12.0%	36.0%	100.0%
牛乳パック	5.6%	5.6%	11.1%	0.0%	22.2%	16.7%	38.9%	100.0%
発泡スチロール(魚箱)	4.8%	0.0%	14.3%	4.8%	28.6%	9.5%	38.1%	100.0%
17衣類・布類	7.1%	7.1%	14.3%	0.0%	28.6%	0.0%	42.9%	100.0%
18食品残さ	4.5%	2.3%	22.7%	0.0%	43.2%	0.0%	27.3%	100.0%
19廃食油	7.1%	7.1%	21.4%	7.1%	14.3%	0.0%	42.9%	100.0%

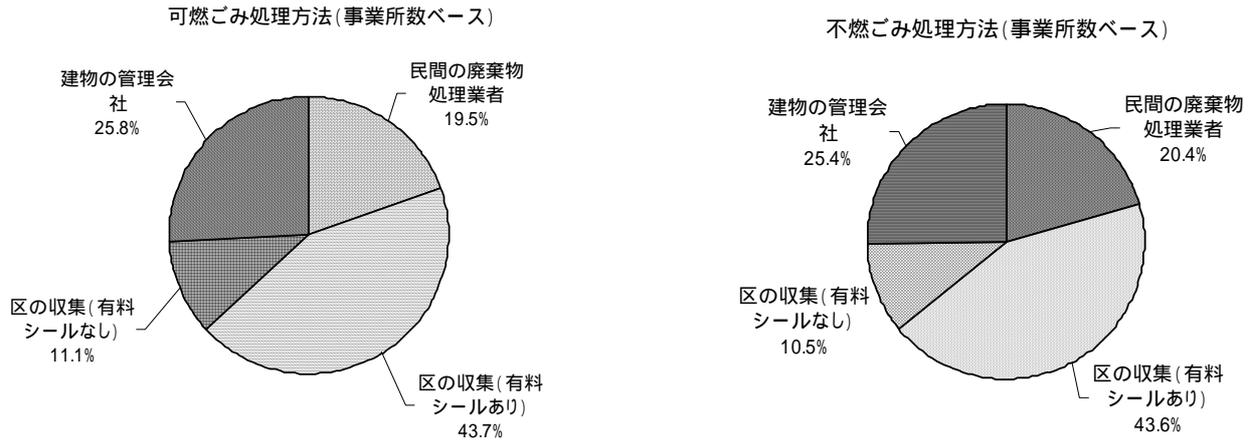
 は20%以上

端数処理をしていないため、各数値を合計しても合計欄と合わない場合がある。

可燃・不燃ごみの処理方法（事業所数ベース）

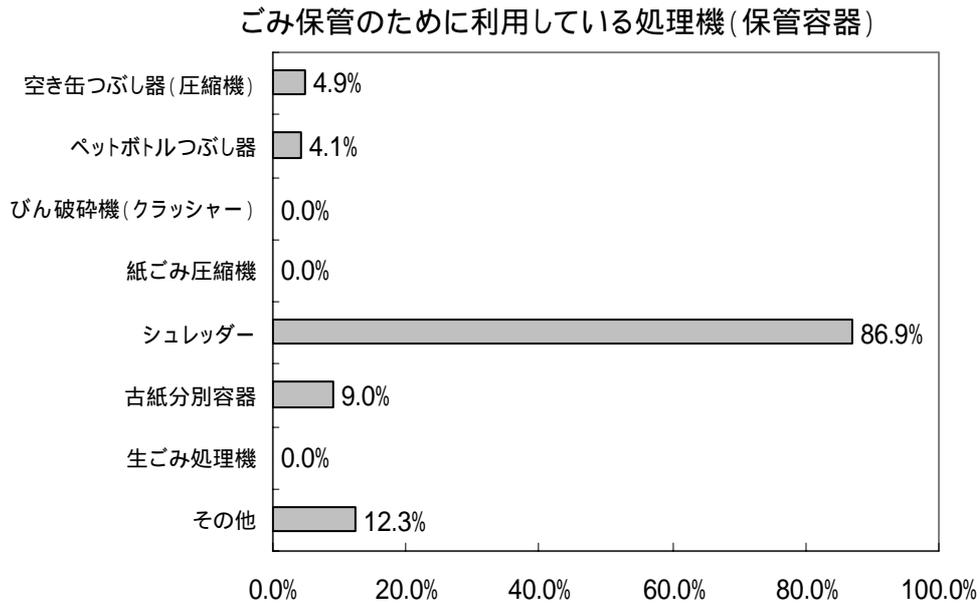
可燃ごみについては、「区の収集に（有料シールあり）」の割合が43.7%と最も高く、次に「建物の管理会社」が25.8%、「民間の廃棄物処理業者」が19.5%であった。

不燃ごみについては、「区の収集（有料シールあり）」が43.6%と最も高く、次に「建物の管理会社」が25.4%、「民間の廃棄物処理業者」が20.4%であった。



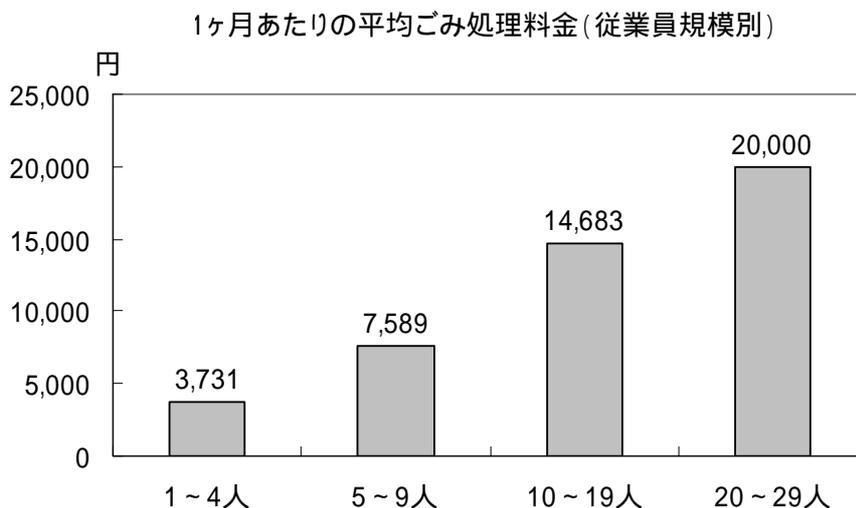
ごみ保管のための処理機や専用の保管容器の利用（複数回答）

事業所内でごみを保管するために用いられている処理機や専用の保管容器は「シュレッダー」が86.9%と高く、その他の機器の利用の割合は低い。



ごみ処理料金

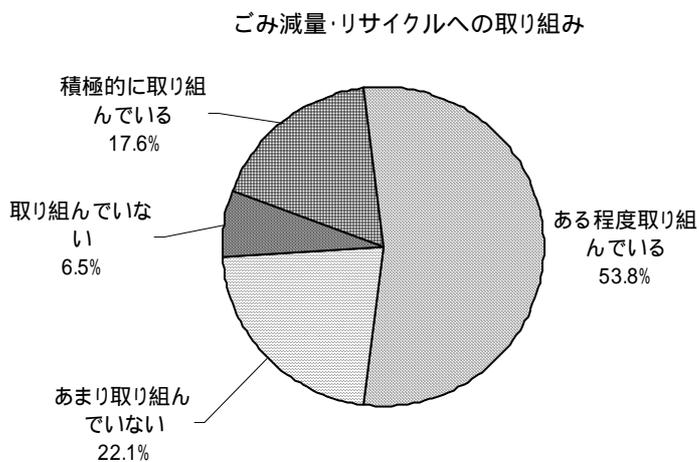
従業員規模別でみた1ヶ月あたりの平均ごみ処理料金は全体の平均では6,793円であった。従業員規模別みると、「20～29人」が20,000円でもっとも高く、次いで「10～19人」が14,683円と、従業員規模が小さくなると処理料金も安くなっている。



ごみ減量・リサイクルの取り組み

事業所でのごみ減量・リサイクルの取り組みについては、「ある程度取り組んでいる」が53.8%ともっとも高く、次に「あまり取り組んでいない」(22.1%)、「積極的に取り組んでいる」(17.6%)となっている。

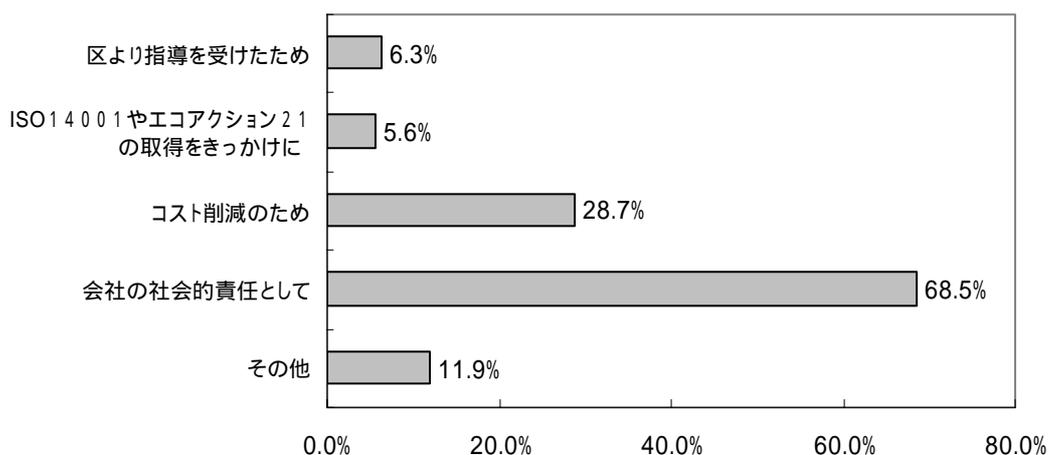
「積極的に取り組んでいる」と「ある程度取り組んでいる」を合わせ、7割以上の事業所がある程度以上の取り組みを行っていることになる。



ごみの減量やリサイクルに取り組んだきっかけ（複数回答）

ごみの減量やリサイクルに取り組んでいると回答した事業所に、減量・リサイクルに取り組んだきっかけについて尋ねた。取り組んだきっかけは、「会社の社会的責任として」が68.5%ともっとも高く、次に「コストの削減のため」(28.7%)、「区より指導を受けたため」(6.3%)、「ISO14001 やエコアクション 21 の取得をきっかけに」(5.6%)となっている。

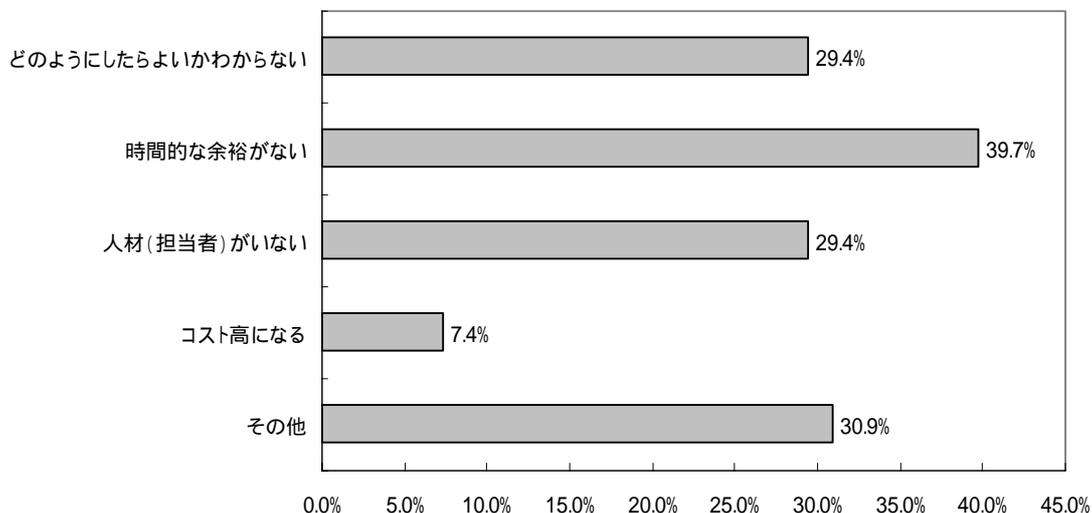
取り組んだきっかけ(複数回答)



ごみの減量やリサイクルに取り組んでいない理由（複数回答）

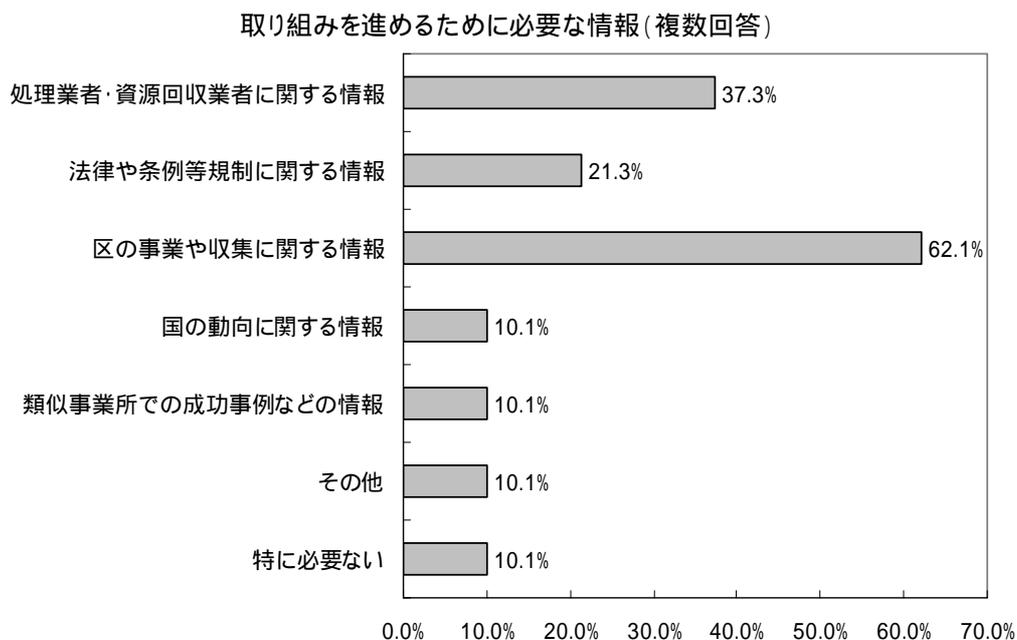
ごみの減量やリサイクルに取り組んでいないと回答した事業所に対して、減量・リサイクルに取り組んでいない理由を尋ねた。取り組んでいない理由は、「取り組む時間的な余裕がない」(39.7%)、「どのようにしたらよいかわからない」(29.4%)、「取り組むための人材がない」(29.4%)の割合が高く、「コスト高になるから」(7.4%)は低かった。

取り組んでいない理由(複数回答)



取り組みを進めるために必要な情報（複数回答（3つまで））

さらに取り組みを進めるために必要な情報については、「区の事業や収集に関する情報」が62.1%もっとも高く、次に「処理業者・資源回収業者に関する情報」（37.3%）、「法律や条例等規制に関する情報」（21.3%）となっている。



モデル地区定点観測調査

1. 調査概要

調査方法

区より指定された集積所の写真を撮影し、あわせて袋数及び重量を測定した。

調査地点

以下の6地点の集積所を対象に調査を実施した。

調査地点（括弧内は調査集積所数）

南麻布5丁目（1箇所） 西麻布3丁目（2箇所） 赤坂4丁目（1箇所） 南青山3丁目（2箇所） 北青山2丁目（1箇所） 白金1丁目（1箇所）
--

調査時期

収集区分変更前・後の変化を把握するために計3回調査を実施した。

第1回 [区分変更前] 平成19年9月24日（月）～9月29日（土）

第2回 [区分変更後] 平成19年11月12日（月）～11月17日（土）

第3回 [区分変更後] 平成20年1月21日（月）～1月26日（土）

2. 調査結果

南麻布

可燃 9月29日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 1 0 0 1 0



不燃 9月24日(月)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 2 0 1 0 0 21



その他内訳
金属板(30×15)20 プラスチック引出し(30×25)1

量の傾向		可燃	不燃	プラスチック
第1回	区分変更前	-	-	-
第2回	区分変更後	変化なし	変化なし	-
第3回	区分変更後	変化なし	変化なし	変化なし

基準

可燃 11月17日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 1 0 0 0 2



その他内訳
ダンボール1(中にレジ袋大×2程度のごみ) 傘1

不燃 11月12日(月)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 3 0 1



その他内訳
レジ袋大サイズのパッキン1

プラ 11月13日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 1 1 0 2 2 1 1



その他内訳
傘1

可燃 1月26日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 2 0 0 1 0 0



不燃 1月21日(月)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 6 2 4



その他内訳
蛍光灯2 皿1 刃物1

プラ 1月22日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 2 1 1 0 0 0



西麻布A

可燃 9月29日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 6 0 0 1 3 0



不燃 9月24日(月)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 1 6 0 0 3 9 2



その他内訳
発泡スチロール2

量の傾向		可燃	不燃	プラスチック
第1回	区分変更前	-	-	-
第2回	区分変更後	減少	減少	-
第3回	区分変更後	減少	減少	変化なし

基準

可燃 11月17日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 1 0 0 2 0 0



不燃 11月12日(月)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 0 0 0



プラ 11月13日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 2 0 0



可燃 1月26日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 1 1 1 2 0 0



不燃 1月21日(月)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 1 0 0 0



プラ 1月22日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 1 0 0 1 0 0



西麻布B

可燃 9月29日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 1 0 0



不燃 9月24日(月)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 1 0 0 0 3 0



量の傾向		可燃	不燃	プラスチック
第1回	区分変更前	-	-	-
第2回	区分変更後	増加	減少	-
第3回	区分変更後	増加	減少	増加

基準

可燃 11月17日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 3 0 3 1 1 0



不燃 11月12日(月)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 1 0 1



その他内訳
(50×50の機械ごみ2、50×30の機械ごみ1)がまとめて1

プラ 11月13日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 0 0 0



可燃 1月26日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 7 3 2 0 0 0



不燃 1月21日(月)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 0 0 0



プラ 1月22日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 1 2 0 2 0 0



赤坂

可燃 9月27日(木)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 4 8 11 4 16 0 3



その他内訳
紙袋1 段ボール2

不燃 9月28日(金)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
2 0 8 12 2 28 8 1



その他内訳
発泡スチロール1

量の傾向	可燃	不燃	プラスチック
第1回 区分変更前	-	-	-
第2回 区分変更後	変化なし	減少	-
第3回 区分変更後	変化なし	減少	変化なし

基準

可燃 11月15日(木)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 1 14 1 0 8 22 0



不燃 11月16日(金)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 2 5 1 0 3 20 0



プラ 11月17日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 1 0 0 3 13 1



その他内訳
プラスチックのタイル1束

可燃 1月24日(木)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
1 0 13 3 0 5 15 1



その他内訳
段ボール1

不燃 1月25日(金)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 1 5 0 1 8 3 6



その他内訳
桶1 植木鉢5

プラ 1月26日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 6 0 2 4 7 3



その他内訳
段ボール3

南青山A

可燃 9月25日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 1 0 0 1 2 1



その他内訳
ごみ袋1

不燃 9月26日(水)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 1 0 0 1 1 6



その他内訳
バケツ2 発泡スチロール2 FAX1 蛍光灯1

量の傾向	可燃	不燃	プラスチック
第1回 区分変更前	-	-	-
第2回 区分変更後	変化なし	減少	-
第3回 区分変更後	変化なし	減少	変化なし

基準

可燃 11月13日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 2 0 0 1 0 0



不燃 11月14日(水)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 0 0 1



その他内訳
スプレー缶1

プラ 11月15日(木)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 2 0 0 0 2 0



可燃 1月22日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 2 0 2 0 0 0



不燃 1月23日(水)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 0 0 1 0



プラ 1月24日(木)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 2 0 0 1 0 0



南青山B

可燃 9月25日(火)

90L	70L	45L	30L	20L	レジ大	レジ小	その他
0	0	8	0	1	3	14	0



不燃 9月26日(水)

90L	70L	45L	30L	20L	レジ大	レジ小	その他
0	0	18	3	2	2	12	1



その他内訳
発泡スチロール1束

量の傾向		可燃	不燃	プラスチック
第1回	区分変更前	-	-	-
第2回	区分変更後	変化なし	変化なし	-
第3回	区分変更後	変化なし	変化なし	変化なし

基準

可燃 11月13日(火)

90L	70L	45L	30L	20L	レジ大	レジ小	その他
0	0	13	0	0	1	13	5



その他内訳
ダンボール箱3 発泡スチロール2

不燃 11月14日(水)

90L	70L	45L	30L	20L	レジ大	レジ小	その他
0	0	12	2	2	2	6	0



プラ 11月15日(木)

90L	70L	45L	30L	20L	レジ大	レジ小	その他
0	0	1	0	0	0	4	0



37

可燃 1月22日(火)

90L	70L	45L	30L	20L	レジ大	レジ小	その他
0	0	9	0	1	9	4	4



その他内訳
紙袋2 段ボール1 ごみ箱1

不燃 1月23日(水)

90L	70L	45L	30L	20L	レジ大	レジ小	その他
0	0	17	0	0	15	8	1



その他内訳
ストーブ1

プラ 1月24日(木)

90L	70L	45L	30L	20L	レジ大	レジ小	その他
0	0	0	0	0	3	0	0



北青山

可燃 9月25日(火)

回収済み



不燃 9月29日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 3 14 4 2 6 7 2



その他内訳
斗缶2

量の傾向		可燃	不燃	プラスチック
第1回	区分変更前	-	-	-
第2回	区分変更後	-	変化なし	-
第3回	区分変更後	-	変化なし	変化なし

基準

可燃 11月13日(火)

回収済み



不燃 11月17日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
2 0 8 0 0 7 4 1



その他内訳
醤油の一斗缶1
他: プラがレジ袋小10 レジ袋大5(写真左端)

プラ 11月14日(水)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 0 1 1 1 0



可燃 1月22日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 1 8 6 0 4 1 0



不燃 1月26日(土)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 3 6 0 0 6 11 0



プラ 1月23日(水)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 0 1 0 0 0 1



その他内訳
発泡スチロール1

白金

可燃 9月27日(木)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 6 6 13 45 20 11



その他内訳
紙袋4 ボール紙2 段ボール2 木の束2
カーペット1 アンテナの部品1

不燃 9月25日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
2 2 7 3 6 89 22



その他内訳
ハンガー2 カーペット1 紙袋1

量の傾向	可燃	不燃	プラスチック
第1回 区分変更前	-	-	-
第2回 区分変更後	変化なし	減少	-
第3回 区分変更後	変化なし	減少	変化なし

基準

可燃 11月15日(木)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 10 3 0 43 21 5



その他内訳
紙袋1 ボール箱1 紙袋小1 トートバッグ(雑誌入り)1
ドライバーセットの入ったプラスチックトレイ1

不燃 11月13日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 0 9 0 3 37 16 1



その他内訳
布袋1(45L相当)

プラ 11月16日(金)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 2 1 1 1 18 4 2



その他内訳
テレビ 50×50×15発泡スチロール1

可燃 1月24日(木)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 1 7 3 2 43 7 7



その他内訳
紙箱3 洗濯洗剤の箱2 段ボール2

不燃 1月22日(火)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 1 5 3 0 28 12 5



その他内訳
ハンガー2 蛍光灯1 ペットボトル2

プラ 1月25日(金)

90L 70L 45L 30L 20L レジ大 レジ小 その他
0 3 1 3 0 17 7 3



その他内訳
プラスチックケース(25×30×10)2 (25×30×5)1

全体的な傾向

区分変更前に比較した区分変更後のごみの増減傾向（プラスチックに関しては区分変更直後である第2回を基準とした増減傾向）は以下のとおりであった（網掛け部分が比較の基準である）。

			可燃	不燃	プラスチック
南麻布	第1回	区分変更前	-	-	
	第2回	区分変更後	変化なし	変化なし	-
	第3回	区分変更後	変化なし	変化なし	変化なし
西麻布A	第1回	区分変更前	-	-	
	第2回	区分変更後	減少	減少	-
	第3回	区分変更後	減少	減少	変化なし
西麻布B	第1回	区分変更前	-	-	
	第2回	区分変更後	増加	減少	-
	第3回	区分変更後	増加	減少	増加
赤坂	第1回	区分変更前	-	-	
	第2回	区分変更後	変化なし	減少	-
	第3回	区分変更後	変化なし	減少	変化なし
南青山A	第1回	区分変更前	-	-	
	第2回	区分変更後	変化なし	減少	-
	第3回	区分変更後	変化なし	減少	変化なし
南青山B	第1回	区分変更前	-	-	
	第2回	区分変更後	変化なし	変化なし	-
	第3回	区分変更後	変化なし	変化なし	変化なし
北青山	第1回	区分変更前	-	-	
	第2回	区分変更後	-	変化なし	-
	第3回	区分変更後	-	変化なし	変化なし
白金	第1回	区分変更前	-	-	
	第2回	区分変更後	変化なし	減少	-
	第3回	区分変更後	変化なし	減少	変化なし

上記の表より、不燃ごみの排出量については減少又は変化なしの傾向で推移していることが分かる。なお、プラスチックのごみについては区分変更直後の第2回目調査とその後の第3回の調査時に明確な増加傾向がないところが多い。

個別集積所の傾向

個別集積所の特長は下記の通りである。

調査地	傾 向
南麻布	第 2 回・第 3 回の調査期間内に可燃ごみ・不燃ごみ・プラスチックごみの量は大きく変化していない。
西麻布 A・B	不燃ごみの量が区分変更後に減少した可能性がある。
赤坂	区分変更前の不燃ごみが区分変更後の不燃ごみ・プラスチックごみへと二分されたことがうかがえる。
南青山 A	区分変更後に不燃ごみの量が著しく減少しており、不燃・プラスチックの分別が順調に進んでいることが推測できる。
南青山 B	プラスチックごみとして出されるごみの割合が不燃ごみに比べて少ない（赤坂や白金の集積所と比較すると相違が明瞭）。
北青山	プラスチックごみとして出されるごみの割合が不燃ごみに比べて少ない。
白金	赤坂の集積所と同じく、区分変更前の不燃ごみが区分変更後の不燃ごみ・プラスチックごみへと二分されている。

考察

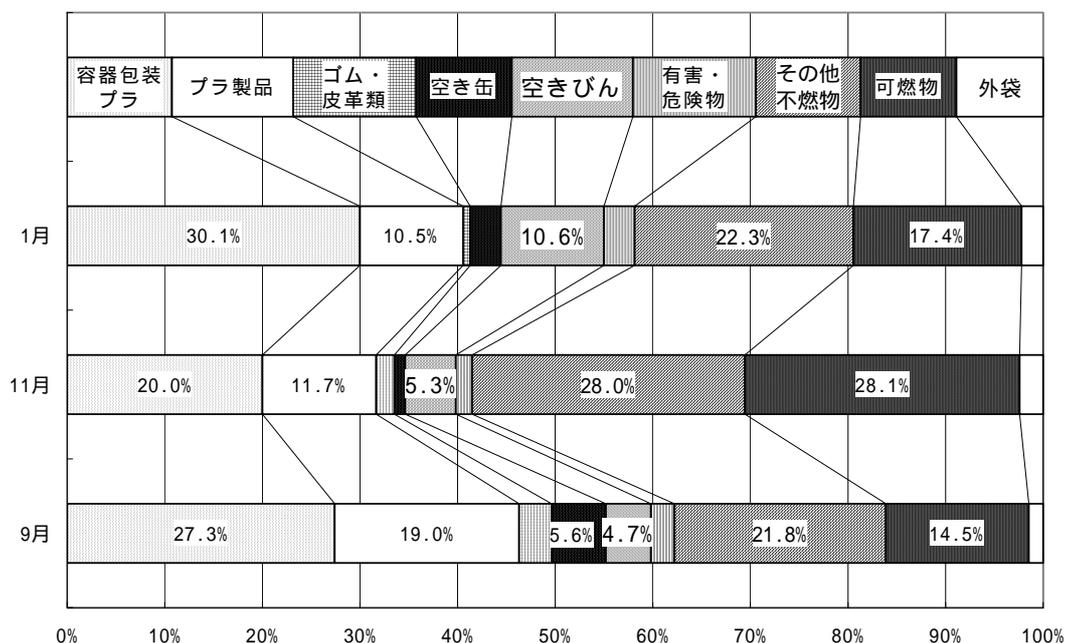
1. モデル回収の評価

(1) モデル回収実施地区の組成

分別区分の変更で大きな変化が想定されるのは、不燃ごみの組成において、「容器包装プラスチック」及び「プラ製品」の減少である。「ゴム・皮革類」は、組成割合が低いために大きな変化は表れにくいと考えられる。

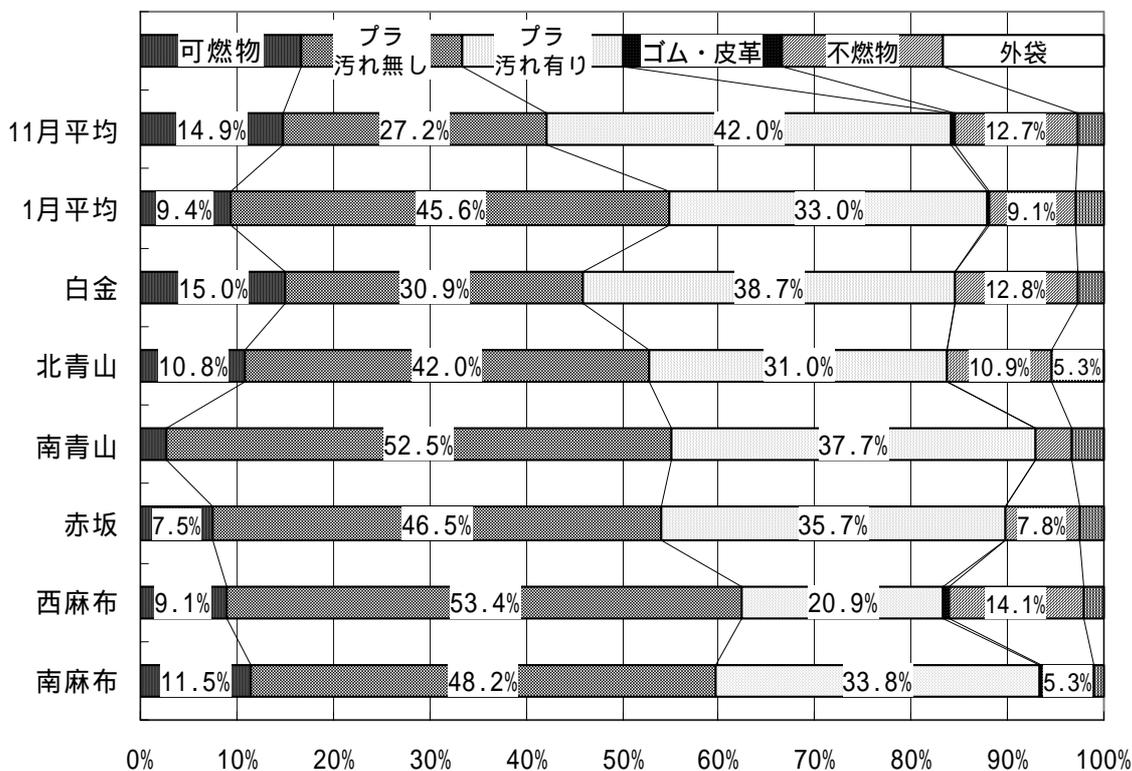
モデル回収地区の組成調査結果をみるとモデル回収実施前の9月とモデル回収実施後の11月の比較では、「容器包装プラスチック」の減少はみられるが、「プラ製品」は変化がみられない。また、1月の結果をみると「容器包装プラスチック」の割合は9月ほどではないが増加し、「プラ製品」は9月よりも増加している。不燃ごみの組成をみる限りモデル回収による変化は読み取りにくい結果となった。

モデル回収実施地区の不燃ごみの組成



資源プラスチックの組成をみると、地域によるばらつきがあるものの、可燃物や不燃物などの不純物の減少、食品などが付着したプラスチック（「プラ汚れ」）の減少など分別の向上がみられる。

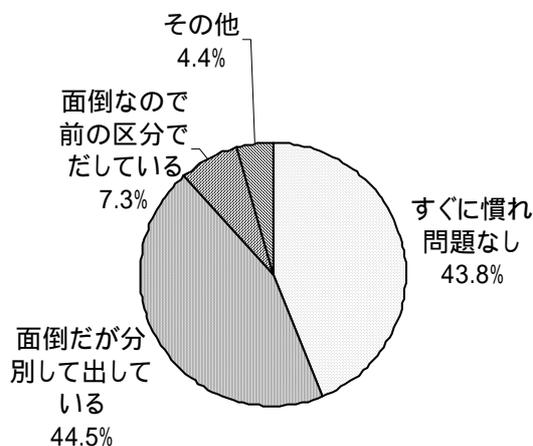
資源プラスチックの組成



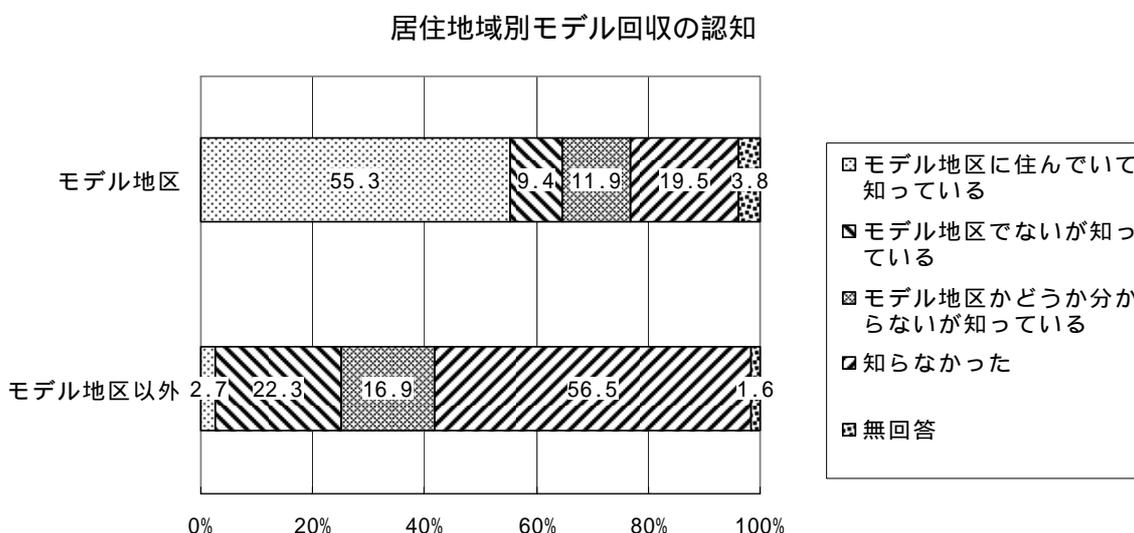
(2) モデル回収への参加協力

モデル回収への参加協力について、区民アンケート結果からみる。モデル地区に住んでいると答えた人に対して、実際に分別した感想を尋ねたところ、「面倒だが分別して出している」、「すぐに慣れて問題なし」など、モデル回収に協力している人は約 90%となっている。

実際に分類してみた



しかし、回答者に答えてもらった住所（町丁目）から、モデル回収地域への居住者かどうかを判断すると、モデル地域に住んでいて「モデル地域に居住している」と認識している人は55.3%であった。



(3) まとめ

モデル地域の居住者にモデル回収地域であることが十分に浸透していないため、モデル回収に参加している人と参加していない人がおおよそ半々となっている。そのため、モデル回収に参加している人のみが排出する資源プラスチックは、分別もよく徐々に良くなっているが、モデル回収に参加していない人も排出する不燃ごみの組成では、「容器包装プラスチック」や「プラ製品」も不燃ごみとして排出されているため、それらの減少が十分に見られない結果となった。

モデル回収に協力している人への分別精度の向上のためのPRも必要であるが、モデル回収地域の居住者に対するモデル回収への参加協力のPRが必要である。

2. 区収集のごみ・資源

区が収集するごみ・資源は、区民から排出されるものと小規模の事業所から排出されるものがある。今回の調査結果から、それらの量について推計する。

(1) 家庭から排出されるごみ・資源

排出原単位調査では、1人1日あたりのごみ・資源量を求めたが、これに人口及び年間日数を乗じて年間排出量を求める。

1人1日あたりの量は、モデル地区と通常地区の結果があるが、モデル地区と通常地区では排出形態が異なるだけで、排出量の変化が起こったとは考えにくい。そのため、モデル地区の結果も通常地区の結果も区民1人1日あたりの量であると考え、以下の計算では両方の平均である704gを使用して計算する。また、資源の量は188gを使用して計算する。

1人1日あたりのごみ量

単位：g

	家族人数	可燃	不燃	資源	資源 プラスチック	総計
モデル地区	1人世帯	362	35	437	100	934
	2人世帯	514	58	197	53	821
	3人世帯	446	64	163	43	716
	4人世帯	303	25	144	44	516
	5人世帯	365	43	250	36	693
	6人世帯	219	48	74	71	412
	7人世帯	171	57	12		241
モデル地区計		378	41	188	47	654
通常地区	1人世帯	405	165	437		1,007
	2人世帯	489	120	197		805
	3人世帯	508	74	163		745
	4人世帯	413	159	144		715
	5人世帯	488	79	250		817
	6人世帯	271	0	74		345
	7人世帯	57	0	12		69
通常地区計		448	117	188		753
全体平均						704

平成19年度の外国人を含む登録人口(206,325人)を乗じて、区が収集する年間のごみ等の量を求めると52,989tとなる。また、資源(資源プラスチックを除く)量は14,131tとなる。

(2) 区が収集する事業所からのごみ・資源

可燃ごみ・不燃ごみの量

事業所から排出される可燃ごみ、不燃ごみのうち区が収集する量は、従業員人数が30人未満の小規模な事業所から排出される場合が多い。そのため、アンケートは従業員数30人未満の小規模な事業者に絞って行った。

アンケート結果から、区の収集に排出している事業所の1事業所の年間排出量を求めると、「区の収集(有料シールあり)」では、可燃ごみが1.117t、不燃ごみが0.300t、「区の収集(有料シールなし)」では、可燃ごみが0.433t、不燃ごみが0.245tとなる。

処理方法別の1事業所あたりの年間排出量

単位：t

	民間の廃棄物処理業者	区の収集(有料シールあり)	区の収集(有料シールなし)	管理会社任せ	不明	全体
可燃ごみ	4.882	1.117	0.433	1.064	0.415	1.722
不燃ごみ	1.610	0.300	0.245	0.317	0.160	0.534

また、従業員人数30人未満の事業所のごみの処理方法をアンケートから求めると下記の表ようになる。また、区内の従業員人数30人未満の事業所数は40,335となる。

処理方法別事業所数の割合

単位：件

	民間の廃棄物処理業者	区の収集(有料シールあり)	区の収集(有料シールなし)	管理会社任せ	不明	計	「管理会社任せ」「不明」除く
可燃ごみ	39	84	18	46	17	204	141
%	27.7%	59.6%	12.8%	-	-	-	100.0%
不燃ごみ	38	82	19	44	22	205	139
%	27.3%	59.0%	13.7%	-	-	-	100.0%

「管理会社任せ」は、民間の廃棄物処理業者の収集か区の収集のいずれかであり、これら不明分(「不明」の回答も含む)を除いて、処理方法の事業所数の割合を求めた。

区内事業所数

単位：件

従業員数	30人未満	30人以上	計
事業所数	40,335	4,581	44,916

平成18年企業・事業所データから算出

統計データでは派遣社員のみ事業所は従業員規模別には表記されていないため、それ以外の事業所数の比率で按分した。

以上の結果から、「処理方法別の1事業所あたりのごみ量」×「処理方法別の事業所数の割合」×「30人未満の事業所数」で、処理方法ごとのごみ量を求めると、次の表ようになる。

処理方法別のごみ量

単位：t

	民間の廃棄物処理業者	区の収集 (有料シールあり)	区の収集 (有料シールなし)	計
可燃ごみ	54,466	26,841	2,230	83,536
不燃ごみ	17,753	7,138	1,351	26,242

区が収集する事業系の資源

アンケート結果から区の資源収集に排出している 1 事業所あたりの年間の資源の量を求めると 146kg となる。

1 事業所あたりの年間品目別排出量

単位：kg

品目	民間売却等	逆有償リサイクル	民間でごみ処理	納入業者回収	区のごみ収集	区の資源収集	管理会社任せ	不明	計
1新聞紙	6	20	22	8	22	41	29	8	157
2雑誌	1	12	20	6	27	40	23	7	135
3コピー用紙	0	37	18	0	34	10	46	9	155
4電算用紙	0	0	5	0	7	2	0	0	15
5機密文書	0	1	10	0	11	1	16	3	43
	0	3	2	0	8	4	5	3	25
6段ボール	3	9	31	2	13	31	13	15	116
7空き缶	0	0	1	0	2	1	1	1	6
	0	3	10	0	6	6	7	36	70
8一斗缶	0	0	0	0	0	1	0	2	3
9空きビン(ビールびん)	0	0	0	11	0	0	0	6	17
10空きビン(一升びん)	0	0	0	1	0	0	0	0	1
11空きビン(その他のびん)	1	1	2	4	3	4	1	3	19
12PETボトル	0	0	2	0	2	2	2	1	9
	0	2	6	0	6	2	4	12	33
13プラの弁当ガラ	0	0	2	0	2	0	1	1	6
	0	0	5	0	2	0	0	0	7
14食品トレイ	0	0	0	0	2	1	2	3	7
15牛乳パック	0	0	0	0	2	9	2	37	50
16発泡スチロール(魚箱)	0	0	0	0	1	0	1	1	3
17衣類・布類	0	0	0	0	4	0	0	2	6
18食品残さ	0	0	146	0	200	0	55	166	567
19廃食油	0	0	39	17	14	0	0	37	107
合計	11	90	320	50	369	156	210	354	1,559
1～12までの計	11	90	128	33	142	146	148	107	805

上記グレーの部分が、区の資源収集に排出している量(トレイ、牛乳パックは除外)

従業員人数 30 人未満の事業所のうち、資源を「区の資源収集」に排出している事業所数の割合は、可燃ごみ、不燃ごみで区の収集に排出している(有料シールありの場合となしの場合の合計)割合と考える。両者の割合はやや異なるため、平均の 72.5% 使用して、事業所が区の収集に排出している年間の資源の量を求めると、4,270 t となる。

(3) 区が収集するごみ・資源の量

これまで求めた区が収集する家庭及び事業系ごみ・資源の量をまとめると、家庭系の総

量が 53,017 t、事業系が 41,829 t、合わせて 94,846 t となる。また、家庭系と事業系のごみのごみ・資源の割合はそれぞれ 56%、44%となる。

ただし、細かな数値まで求めているが、これらの量は排出原実態調査やアンケート結果で求めた結果であり、目安となるおおよその値と考える必要がある。

区が収集する家庭及び事業系のごみ・資源 単位：t

区分	ごみ	資源	計	%
家庭系	38,859	14,158	53,017	56%
事業系	37,560	4,270	41,829	44%
区収集計	76,419	18,428	94,846	100%

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めます。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

発行番号 19138-4565

港区ごみ排出実態調査報告書（概要版） （平成19年度版） 平成20年(2008年)3月

発行 港区産業・地域振興支援部清掃リサイクル課
〒108-0075 東京都港区港南3-9-59
電話 03-3450-8273
受託 株式会社ダイナックス都市環境研究所
電話 03-3580-8221